

業務資料16707

ゆうかり

第12回移住者子弟技術研修生
研 修 レ ポ ー ト

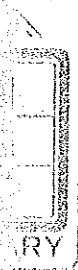
1984年1月

国際協力事業団

移国内

J R

84-1



国際協力事業団

受入 月日	'84. 5. 17	600
		234
登録No.	10268	E8D

まえがき

国際協力事業団では、中南米各地の移住者子弟を本邦に招致し、その子弟の属する地域社会の発展に必要な技術研修および知識を修得せしめることを目的に「移住者子弟技術研修制度」を実施している。

この制度は昭和46年度から実施し、本年4月に第14回生を迎えることになり、受入れた研修生は、現在研修中の第13回生を含め、総数222名になっている。

各研修生は幼い頃両親に連れられて移住し成人となった、あるいは中南米の地で生れた二世・三世の人達の中から選ばれた子弟であるが、父母が生まれ育った国における研修は、単に技術を身につけるということだけでなく、日本の文化そのものを学ぶ良い機会ともなった訳である。

高度成長した日本の社会機構の中で身をもって体験し、かつ、修得した知識と技術を生かし、研修生諸君が帰国後移住地および地域社会の発展に大きな貢献を果すものと確信するものである。

本誌は第12回生（研修期間：昭和57年4月～58年9月）の1年6カ月間にわたる研修総括報告書および研修記録をまとめたものである。

最後に移住者子弟技術研修制度を深くご理解いただき、研修生諸君を温かくご指導下さった、関係機関の皆様にあらためて感謝の意を表する次第である。

1984年1月

JICA LIBRARY



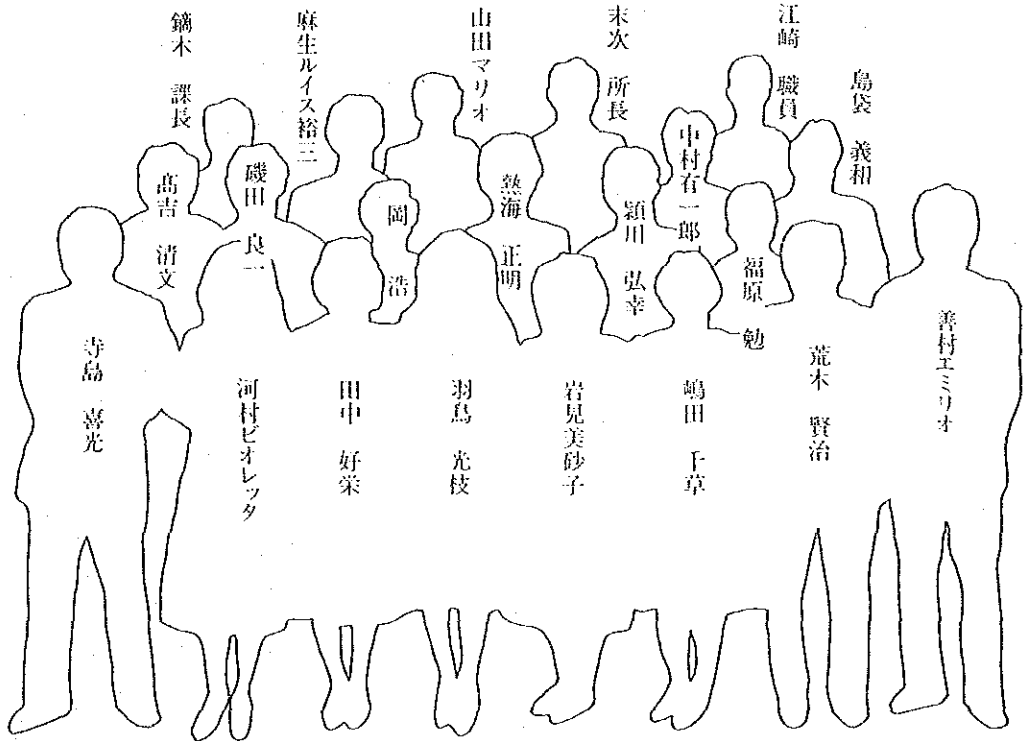
1019639[2]

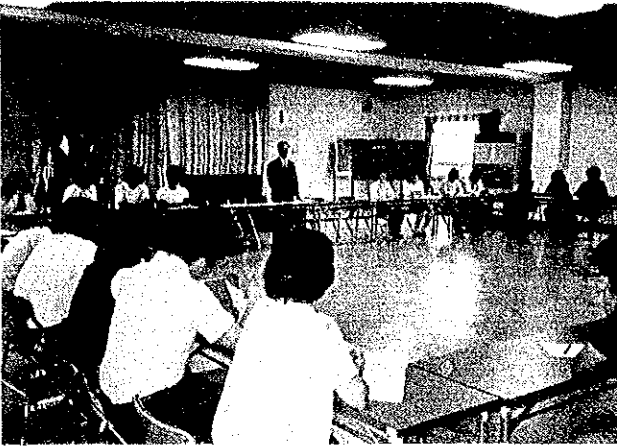
国際協力事業団
移住事業部長



研修修了記念

(昭和58年9月30日 海外移住センター玄関)





合同懇談会
(58 年 4 月海外移住センター)



東京見物 皇居前
(57 年 4 月)



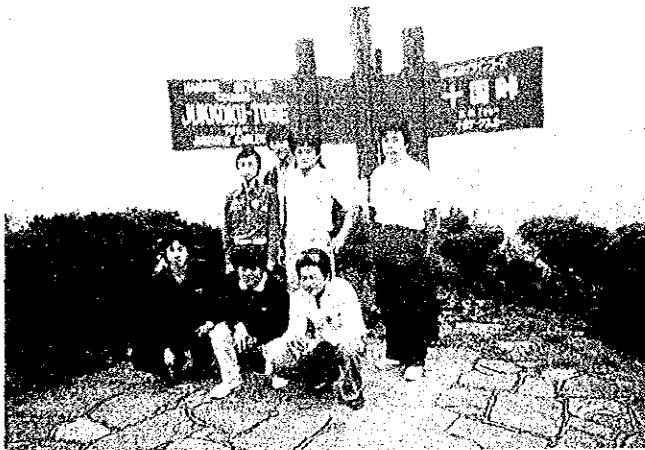
横浜 三溪園
(57 年 4 月)



合同研修会 修善寺
(57年10月)

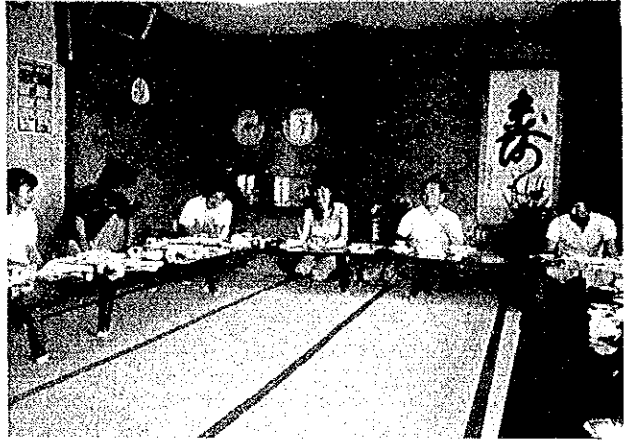


箱根園
(57年10月)



箱根十国峠
(57年10月)

夏期研修旅行
研修生の現況報告
十和田湖くじゃく荘
(58 年 8 月)



懇話会
十和田湖くじゃく荘
(58 年 8 月)

松島海岸
(58 年 8 月)



中尊寺
(58 年 8 月)



毛越寺
(58 年 8 月)

日産自動車追浜工場見学
日産ショールーム前
(58 年 9 月)



ボーリング大会，第13回生合同で
（58年9月磯子ミリオンボール）



◀ 研修報告会
海外移住センター
（58年9月）



目 次

まえがき

前期研修を終えて 1

岩 見 美砂子 1

嶋 田 千 草 2

島 袋 義 和 3

善 村 エミリオ 4

麻生ルイス裕三 5

中 村 有一郎 6

荒 木 賢 治 7

岡 浩 8

高 吉 清 文 8

山 田 マリオ 9

磯 田 良 一 10

穎 川 弘 幸 11

日本の印象 13

嶋 田 千 草 13

岩 見 美砂子 13

善 村 エミリオ 15

羽 鳥 光 枝 15

福 原 勉 16

河 村 ビオレッタ 17

研修総括報告書 19

ブラジル国 セバスチアナ 熱 海 正 明 19

トメアスー 穎 川 弘 幸 21

ベラピスタ 岡 浩 24

	レシーフエ	羽 鳥 光 枝	25
	イ タ チ	麻生ルイス裕三	28
	ジャカレイ	磯 田 良 一	31
	レジストロ	山 田 マリオ	34
	ピリチーバミリン	荒 木 賢 治	37
	桜 高 森	中 村 有 一 郎	38
ボリヴィア国	サンファン	福 原 勉	41
	サンファン	嶋 田 千 草	45
	オキナワ	島 袋 義 和	49
パラグァイ国	チャベス	善 村 エミリオ	52
	アスンシオン	岩 見 美砂子	55
	アルト・パラナ	田 中 好 栄	58
アルゼンティン国	セラージャ	寺 島 喜 光	60
ドミニカ国	サント・ドミンゴ	高 吉 清 文	62
ペル ー 国	リ マ	河 村 ビオレッタ	65
第 12 回子弟研修生名簿			75
子弟研修生一覧表			78

前期研修を終えて

岩	見	美砂子
嶋	田	千草
島	袋	義和
善	村	エミリオ
麻	生	ルイス裕三
中	村	有一郎
荒	木	賢治
岡		浩文
高	吉	清マリオ
山	田	良一
磯	田	弘幸
穎	川	

前期研修を終えて

岩見美砂子(パラグエイ アスンシオン)

幼い頃からの夢がやっと実現し、東京農業大学「栄養学科食品原科学研究室」で、食品分析の研修を始めて早くも1年が過ぎ去ってしまいました。「不安」と「希望」の混り合った複雑な気持ちで、日本に到着したのが昨日のように思えます。

複雑な気持ちの不安とは、私の希望通りの研修が果してできるのでしょうか？……………私の育ったパラグエイとは全く違う環境の日本の生活に1年半も耐えることができるであろうか？…ということでした。又「希望」とは、幼い頃からの夢がやっと実現した日本での研修を、どんなことにもくじけることなく、最後まで一生懸命頑張ろうというものでした。今、1年前を振り返ってみると、私は今迄何度か日本に来るチャンスを逃しただけに、「不安」より「希望」の方が強かった、と記憶しています。研修生活が1年過ぎた今は、日本の生活にもすっかり慣れ、友人も数多くでき、楽しく有意義な研修生活を送っています。

私の研修内容は食品分析です。食品分析は食品の価値を判断するために化学的、物理的、あるいは生物的方法によって、食品の性状を示す数値を求めるものです。食品はいろいろな栄養素を含み、その量と質によって栄養価が判断されるもので、その分析はとても大切なものと思っているからです。

最初の4ヶ月間は、東京農業大学栄養学科食品原科学研究室で基礎分析をやりました。夏休みの2ヶ月間は、同大学農業拓殖学科でパラグエイの主食となっているマンジョカ(MANDIOCA)の成分についても調べました。残る前期研修期間も農業拓殖学科でガスクロマトグラフ法による分析の研修を受けました。

ガスクロマトグラフ法は通常分析法で測定できない微量な成分、又は混合試料で似かよった成分を測定することができ、その成分が何であるか(定性分析)、また、その成分の量(定量分析)を調べることができる機器分析法です。

大学内での研修以外には、たくさんの先生方の御配慮で、日進ハム、那須カゴメ工場、恵比寿サッポロビール工場など、食品関係の工場を始め、東京大学アイソトープ総合研究所を見学することができました。

私にとって初めての日本での1年間の生活で感じたことは、研修を始めた当時とは、自分自身の国に対する考え方が変わったということです。私にとって生まれた国(国籍のある)は日本で、育った国はパラグエイです。日本に来て何回か私は「パラグエイと日本とどちらが自分の本当の国だと思いませんか。」と聞かれ「もちろんパラグエイです。」と答えていても、私自身何かスッキリしないものが残っていました。それはなぜかと言われてもよくわかりませんが、1年たった今考えてみると、こと

わざにある「生みの親より育ての親」に似たことではなかったのではないかと思います。今は、日本の良い所の充分とはいえませんがわかり始め「自分の国はパラグアイと日本です。」とはっきり答えられるようになったことです。

4月から9月迄の後期研修も、前期と同じ様に、研修内容以外にも視野を広めて、パラグアイに帰り、日系人社会のためだけでなく、1人でも多くのパラグアイ人に、日本の優れた技術を伝えられるように、又日本の事を少しでも理解していただくためにも、一生懸命頑張りたいと思います。この1年間の研修が無事修了できたのも、JICA職員の方々を始め、栄養科、拓殖学科の先生方のおかげで感謝すると共に、後期々間も御指導いただきたく、お願い致します。

前期研修を終えて

嶋田千草(ボリヴィア サンファン)

4月14日初めて東京農業大学を訪れました。何もわからない私達は栄養学科(13号館)の管理学研究室に行き、赤羽先生、長谷川先生、君羅先生を紹介して頂きました。

栄養学について全く無知な私は何をどう勉強すれば良いのかもわからず大学に行っても何もせずに帰って来る日が続きました。とにかく大学という所は初めてで、どの様な事をしているのかも全くわからない有り様でした。

大学での前期は実習を主とした授業を受けさせて頂きました。講義科目は少なく90分を1時間とした週3時間で、授業に出ても専門用語ばかりで次第に眠くなり、参考書を読むにしても漢字がわからず困ったものでした。

受講科目は給食管理、調理学、栄養指導でした。給食管理では献立で作成、及び表の書き方、分量の決め方、食品購入計画、方法、発注の算出、購入食品の検収、保管等を教わりました。

調理学では味、調味料、香り、色、食品の調理科学、成分の変化、調理操作論、テクスチャー、等でした。

栄養指導では指導の目的、栄養士の役割、食生活の現状と問題点、改善法、その計画、実施、評価等でした。

実習科目は給食管理、栄養指導、調理学実習で180分を1時間とした5時間でした。

給食管理及び栄養指導では献立で作成から始まり、試作、実習、まとめ、をグループに分かれて実施しました。

調理実習では、和、洋、中の基礎調理を教わりました。

夏休みには東北地方に於いて行なわれる栄養調査に連れて行って頂き、地方での食生活を実際に見る事が出来ました。

8月には研究室旅行があり、1泊2日で長野県の白樺湖に行きました。が、台風のため外回りが出来ず2日ともホテル内で過しました。3月中旬には新潟の苗場、石打、みつまた高原へ2泊3日のスキーを楽しんで来ました。生まれて初めて見た雪、リフト、雪ダルマ……何もかもが珍らしく、ついついはしゃぎ過ぎてしまったものです。

大学後期では漢字もずい分読める様になりましたので、講義を中心とした授業を受けました。

受講科目として、生理学、病態学各論、栄養生理学、病態栄養学、公衆衛生、食品衛生学を受けました。

12月上旬からは栄養士通信教育を受けさせて頂いております。参考書を読み課題作成をするのですが、参考書を読む際に時間がかかり思うようにはかどらずアセっております。

残り少ない6ヶ月間、どこまで終れるかわかりませんが、マイペースで頑張りたいと思いますので今後ともどうぞよろしく御指導下さい。

ボリヴィアと日本

島 袋 義 和(ボリヴィア オキナワ)

私は、移住者子弟技術研修生として国際協力事業団サンタ・クルス支部より推薦され日本へ来ました。

国の航空会社でストライキが起きたため予定がおくれ、ボリヴィアからの研修生3名は、4月5日東京成田空港に到着し、2時間後、引率の事業団職員の方と共に横浜海外移住センターへと向いました。その時は、春の訪れと言うか冬の名残りがあって4℃という寒さでした。

我が移住地は環境の良い暖かいボリヴィアの亜熱帯地方から来た私には、この凍りつくような寒さにこれから始まる日本での研修生活が出来るのだろうかと不安を感じました。

18年振りに踏んだ祖国の上ですが余りにも小さい頃日本を離れたせいかな祖国に来ている実感がなく外国に来ているような感じでした。

海外移住センターでは、1週間にわたって研修生活に必要な指導を受け海外移住事業団本部を始め、各関係機関に挨拶に行き、多くの職員の方々からの言葉に研修生活に対し身の引き締まる思いがしました。

一生見る事の出来ないと思っていた日本の印象なる桜の花、そして首都東京の見学までさせて頂き

感謝しました。

隙間なく建ち並ぶ近代的な建物、車の到、行き交う大勢の人々、世界一といわれるだけに見事な大都市、ボリヴィアの奥地から出て来た私は、この想像の出来ない大発展に驚くばかりでした。移住センターでの合同研修は、貴重なもので私にとっては一生忘れることのできない思い出でした。

4月11日午後、研修先北海道へ向って、同期生2名、事業団北海道支部からの引率員と共に出発しました。その時は北海道ではまだ冬で、最もびっくりしたのは、北国では何メートルも積もると言われている真白な雪の事でした。

それから4月12日各関係機関へ挨拶回りをした後、目的地へ向いました。そこで一緒だった同じ研修生とも離れ離れになり感慨深かった。

私がこれから1年余りを過ごす北海道十勝種畜牧場には事業団北海道支部の職員に連れて行って頂きました。場内の方々に挨拶を済ました後、寮に落ち着きました。寮には農高卒研修生が先に何人か入っておりました。みんなまだ20才前ですが、環境の違う私ともうまく合わせてくれました。寮の賄いのおばさんも大変良い方で安心して生活できました。場長を始めとする現場の職員の方々または先生方も良い方ばかりで、御指導の賜物のおかげで、近代的技術を学ぶ事が出来ました。

この間、休みを利用して大阪の親戚を訪ねました。兄、姉、伯母に再会した時には、何とも言えない心持ちになり、やっと祖国に来た実感を味わいました。

前期研修は、肉用牛の飼育管理法、家畜人工受精師、その他飼料作物、畜農経営、搾乳技術等の勉強もしようと意欲を燃しています。

日本で肥育されている肉用牛は生まれて2ヶ月で肥育が開始され、18ヶ月間で体重が600～800kgにもなり、しかも世界一という美味しい肉質だと言われています。

人工受精用の精液は、1回の採取で80頭から100頭分に種付が出来る方法や品種改良等も経済的に出来るようです。ボリヴィアでは、このような集約的技術はまだ専門的には導入されておらず、きわめて原始的方法で行なわれています。ですから牛の増体力も低く50ヶ月間でやっと500～600kgになる状態ですのでこの日本の進んだ技術を十分修得して帰る決意であります。

技 術 研 修 を 終 え て

善 村 エミリオ (パラグァイ チャベス)

国際協力事業団のおかげでパラグァイ国チャベス地区より12回移住者子弟技術研修生の一員として昭和57年4月2日に、生まれて初めて父の故郷の日本の土を踏みました。

早くも日本に来てから1年間になり、月日のたつのは本当に早いものでびっくりしました。

日本にいた時は春なので桜の花が満開に咲いていたのが今でも印象に残っています。

日本に来て1週間、私たちは横浜の海外移住センターにおいていろいろ生活に必要なことの指導研修を受け、もちろん旅行にも連れていってもらいました。

パラグアイの自分が住んでいる移住地では大豆、小麦の連作で、農業もみんな機械化になり、農機具が故障になると30キロ離れている町に機械を持って修理に行き、そのために仕事は2日位出来ない場合があり、私の移住地には修理、整備の出来る人や指導者がいないので必要と思い農業機械の研修を希望して、日本にきました。

4月12日に研修先のある山口県小郡町に行きました。

この1年間山口県経済農業協同組合連合会にお世話になって農業機械の研修を受けてきました。まず農業機械基礎講習会、ガス溶接と農業機械技術指導士講習会を全農岡山講習所で修了しました。基礎では工具の使い方、材料、農用ディーゼル、ガソリンエンジン、防除機、耕うん機、トラクター、自脱型コンバイン、田植機、乾燥機、扱すり機の構造、分解、組立、修理、調整、整備を勉強しました。

山口県立東部高等職業訓練校でアーク溶接、農業機械整備技能検講習会を修了しました。福岡県の北海フォードトラクター株式会社九州支店の修理場で、フォードトラクター修理を手伝い、油圧の回路や調整の仕方を習いエンジン、ミッションの分解、組立を習いました。山口県経済連農機具センターにおいて農機具全般の修理、整備を手伝い技術を身につけてきました。

佐賀県川副千拓地を訪ね、小麦の大型コンバインによる刈取りを現地視察し研修しました。

山口県内にて行なわれた農機具の実演会や、いろいろのメーカーの新機種発表会ならびに技術研修会に参加しました。

残る研修期間は山口県経済連にお世話になってトラクター、コンバインの技術講習を勉強し、パラグアイに帰って地域発展のために役に立ちたいと思います。

1 年 間 の レ ポ ー ト

麻生ルイス裕三(ブラジル イタチ)

日本に来てからもう1年経ちました。この1年間は短かいと感じました。昨年の今頃を思い出すと着いたばかりで何もわからず、果して生きてゆけるのかと心配していました。今は日本の生活にも慣れ、日本語も来た時よりは解るので面白くなって来ました。友達が多くさんできて、とても楽しい毎日です。

日本に来て本当に良かったと思います。こんなに素晴らしいチャンスを与えて頂いた国際協力事業団の皆様に感謝しています。

お世話になった福岡県八女のでんしょう菊の栽培を教えて下さる農家の方と一緒に生活しながら、新しい技術を教えていただきました。僕も負けずに精一杯頑張ってきたつもりですが、まだまだ足りないと思っていますので、後期の6ヶ月間は福岡県の農業試験場で研修を受けたいと思います。八女のでんしょう菊というと日本で一番良い品物ができていると知られていますので、良い農家で指導していただき本当に感謝しています。

お世話になった藤田様が組合長だったので、組合の動きとか出荷の仕方等も教えていただきました。生活には困らず心配する必要は有りませんでした。

日本の農家の皆様は休む暇も少なく、熱心に働くので、僕も同じようにしなければならなかったのです。見学とか旅行に行けるチャンスが少なかったのです。休みが少ないとつらいもので、その分きたえられたと思いいい勉強になりました。

1 年間の研修を終えて

中 村 有一郎(ブラジル 桜高森)

1年間は長いと思っていましたが、あっという間に終わってしまいました。日本の季節は、非常にはっきりしていて、春には桜の花が満開に咲いていましたとても美しかったです。また夏にはとても暑く感じましたが秋がやってきました山が紅葉で、まるで見えるように美しかったです。最初の5ヶ月間は日本語が本当に不安でしたので、いろいろと苦勞や失敗をしましたが、ようやく日本語が少し上達したところです。又日本の生活にもようやくなれてきました。

試験場での研修はおかげさまで、無事過ぎました。園芸試験場では、切花の勉強もしましたが、鉢物や花木の勉強も参考になりました。バラは1日おきに切って開花調査をしまして、春、秋は切りかりで、夏、冬は剪定をしました。その中で消毒をしました。切花、秋菊、カーネーションも大体同じく切って調査をして、さし木、さし芽や繁殖もしました。鉢物シクラメンは特性調査と面積とヨウマエスウを計りました。そして2、3月おきに鉢替をやりました。宿根草花の移植・花木鉢物の鉢上げと管理をやりました。枝物類の剪定と管理をやりました。カスミ草、ブゲン、ホクシヤの剪定と調査と管理をしました。草花類の種子まきと管理をやりました。バラ生産農家に3ヶ月間研修にいきました。その他は、草むしりをしました。

9月に第12回子弟研修生の研修会がありまして懇談会をやり、ボウリング大会もやりました。そして11回生とお別れパーティをやりましたので、とても楽しかったです。

後期研修目的は同じく切花の勉強を続けたいと思い、神奈川県平塚市の横山バラ園で実習することになりました。これからはきびしくなりますが、勉強になるために、一生懸命頑張りたいと思っています。

ます。

前 期 研 修 を 終 え て

荒 木 賢 治 (ブラジル ピリチンバマリ)

昭和57年4月2日15時39分に日本へ着陸して、初めての日本の土を踏みました。夢と思いながら横浜の海外移住センターで10日間の研修を受け、その中では旅行にも連れていてもらいました。その1週間の研修はとでも楽しい事であった。でもそれぞれ研修先へ行き別れる時には寂しく感じ始めました。私の場合は国際農友会の方で研修先が決められる事になっていましたので、4月12日国際農友会でもって農友会会員の農家で研修を行なうこととなりました。初めに静岡県裾野市須山の忠ちゃん牧場でした。富士山の麓であって毎日のように富士山を見ていました。その麓に乳牛、肉牛、めんよう、山羊、わさび園、鱒つりぼりと売店もありました。私は主に酪農の方を実習していました。でも最初に環境に慣れるまでにはかなり時間がかかりそして、ブラジルほけの病気がなかなか治らず、日々が立つとその環境にも慣れてきていろいろと勉強になりました。わからない事はボスに聞き6ヶ月間の農家実習であった。朝早く仕事に行き、そして夜遅くまで手伝っていました。日本の農家の人達はよく頑張っているなぁと感じました。又機会が有る時には市場や屠殺場に行きました。

昭和57年10月5日に第2の研修で静岡県畜産試験場に行きました。試験場では乳牛と肉牛でしたので、じっくりと勉強を農業大学生達と一緒に6ヶ月の期間で酪農の勉強をしました。その中では人工受精方法牛の肥育方法、そして計画以外に受精卵の方法もじっくりと勉強しました。今から受精卵子研究が盛んになっているそうです、又色々勉強になりブラジルへ帰ってから自信が少しわいてきました。そして人生の旅には一度しかない事ですから楽しくやって、色々参考になるように学んでいきたいと思ひます。国際農友会の方で4日クラブ大会に2度参加しました。日本の農民達は力を合わせて色々勉強しながらやっているとと思ひました。日本国の面積は小さいけれど、技術の方は進んでいる。又年末には九州へ見学に行き、そして親戚の方々の所にも行きました。まだまだ日本語の勉強をもっとしっかりやる事にしたいと思ひます。それから農業もよく学びたいのです。

この1年間、国際協力事業団、国際農友会の皆さん達のおかげで日本国へこれる機会ができたことを、心から感謝しています。そして農友会会員、試験場の皆さん又これからも色々ご迷惑をかけると思ひますが、よろしくお願ひします。

昭和58年4月6日 荒木

前期研修を終えて

岡 浩(ブラジル ペラピスタ)

日本へ来ましてははや1年になりました。この1年は香川県高松高等技術学校で勉強をしました。学校ではみんなと一緒に頑張りました。始めは何もわからなくて苦労をしました。でも慣れてきますとわかりやすくなりました。教科書で勉強をする時は漢字が多いので殆んどわからず、みんなに聞きながらやってきました。日本で今迄にいろいろな事を覚えました。日本での生活はブラジルと違うので大変いいところです。

学校が休みの時は友達と一緒に京都へ行きました。僕は1人で下宿をしてきました。下宿では自由に、好きな時に帰ってこれるし、好きな物を食べることもでき、幸福でした。高松では友達がたくさんできました。わからないところがありますと教えてもらいました。マイコンコンピュータを買って、使い方を教えてもらいました。やっと友達ができたと思うと又1人で知らない所へ行くようになりました。

後期研修は大阪の松下電器産業(株)海外研修所、枚方市菊丘南町2の10。

ここでは9月までになっていますので、テレビ、ビデオの勉強をします。後半のぼしたいと思えます。どこで働くかはまだわからないですけれども、できたら松下電器で働けたらと思えます。

これからも一生懸命頑張っていきます。

日本での研修について

高 吉 清 文(ドミニカ サント・ドミンゴ)

国際協力事業団から日本にこれる連絡がきた時が私にとっては一番幸せだったと思えました。日本に行って新しい技術ディーゼルエンジンを身に付けたい気持ちでとっても不安でした。現在ドミニカでは日本車が多くなっており、主にディーゼルエンジンが増えてきましたので、ドミニカで自動車整備を続けるためには、この技術も学ばなければならない時代になったと思ひ、日本に第12回子弟研修生としてこれるチャンスが出来、本当に国際協力事業団の皆様にご感謝しています。3月31日ドミニカ国を離れる時、家族や友達に見送られ、とっても悲しい感じがしました。4月2日に東京成田空港に到着してすぐに海外移住センターに向い途中で桜が満開でした。美しい景色の花を見てやっと日本についた感じがしました。早くも1年になりましたが、この1年間は長崎県職業訓練校で勉強をしてきました。ふりかえって見ると、この1年間は長いような短い期間と感じました。

私は4月13日長崎県職業訓練校で前期研修を終えました。最初は日本語もよくわからずに、友達もいなかったのでもって不安でした。先生達からは言葉（日本語）は学ばなかったけれど寮の舎監さんからいつも日本語をならっていました。訓練校では最初からやりたかったディーゼルエンジンは出来なかったけれど、今ふりかえて見るとやっぱり日本にきて本当に良い勉強になったと思います。自動車整備内容についてはガソリンエンジン、ロータリーエンジン、ディーゼルエンジン又は電気装置、燃料系統キャブレター、オイルポンプギヤ式、ロータリー式シャシー。一番困ったのは電気装置のスタータオルタネーターレギュレーターでした。電気装置についてはわからないところがあったため昨年の夏休み先生達にお願いして10日間ほど県営バス整備工場に入り、短い間だったけれど良い勉強にもなりました。現在3月28日から長崎県交通局中央整備工場に入って一生懸命頑張っています。皆んな親切でディーゼルエンジン、電気装置を教えてもらっています。自動車の構造又は理論的な整備を覚えると段々楽しくなりました。これから6ヶ月の研修期間があるので、もう少しディーゼルエンジン又は電気装置を一生懸命頑張りたいと思っています。

日本の農家へ入って1年間の経験

山 田 マリオ（ブラジル レジストロ）

僕が日本へ来て1年間をふりかえて見ると、何とこの1年間の期間が短く感じました。1週間海外移住センターで研修を受け終って、それぞれの研修先に行きました。

僕の場合は、国際農友会の方で研修先が決められ、静岡県国際農友会の会員の農場で研修を受ける事になりました。初めての農家は市川さんの所で、水田と、ビニールハウスで苺の栽培をやっておられました。毎日、朝早くおきて、苺取りをしてパックの中に入れて市場へ出していました。苺の栽培を終りまして、米の勉強に入りました。田植の始まりで土を作り苗代で育てた稲の苗を水田に移し植える仕事をして、勉強になりました。市川さんの農家で研修を終りまして、国際農友会に農業機械の勉強をしたいと話しましたが、そのようにはなりません。そして、高田さんの農場で柑橘の勉強にまわされました。高田さんの所ではハウスみかんとロージみかんの栽培をやっていました。アメリカからもって来た新しいみかんの品質の勉強をすることにしました。この農場の仕事として、ビニールハウスの取りかえをしたり、ロージみかんハウスみかんの消毒の仕事を手伝いました。みかんの草をかいたり、新しいハウスの組立もしました。僕にとって、高田さんの農場へ入ってプラスになった事は、最高の農作物を作るためには新しい技術をもって作る事が大切だと感じました。農家にとって経営が刺激になりました。

また3月でミネオラムかんの出来ない時がありまして、ハウスの中へ入って注水の時間を測ったり

湿度計を正確に測ったりすることをしました。

高田さんの農場で研修を終りまして、次に佐藤さんの農場でロージみかんの勉強をしました。この農場では早生みかんとネーブル、青島、ふつうみかんの栽培をやっていました。仕事として枝を棒で支えたりひもでつり上げたりして地面へ下らないような作業もしました。仕事として、草取りや、草刈りなどもしました。堆肥肥料や化学肥料、アンモニウム、硝酸アンモニウム、カリウム石灰などの肥料を農家で混ぜて使っていました。夜はみかんを貯蔵庫に入れて積み上げていました。みかんの摘果、接木や選果場へみかんを出荷する仕事もしました。佐藤さんの農場で研修を終り、勝又さんの農場で酪農の勉強をしました。乳牛は70頭飼っていました。毎日、朝と夕方はさくに入れていました。勉強として、サイレージの作り方や、牧草の作り方、牛の病気や飼料と酪農の施設の勉強が出来ました。

この1年間は、農家で研修をしまして、農家で研修をする場合には夜遅くまで仕事をする時があります。勉強の時間とか休み時間がない時が、一番つらく感じました。

日本へ来て、農家に1年間お世話になり、農家の方々にとってブラジル人として気持ちよくわかっていただき、又、何もしてくれなかった農家もありました。

日本へ来て日本の歴史のことも、少し分かる事が出来ました。こうして、日本の人々と知りあうことができ、農家の各先生にお世話になったり、沢山友達も出来ました。日本の農業、工業も少し分かる事が出来ました。残りの半年間は施設園芸と米の作り方の勉強をするつもりです。

1 年 間 の レ ポ ー ト

磯 田 良 一 (ブラジル ジャカレイ)

1年間の研修をまとめますと、こんなに早く終り、いろいろな事がたくさんできました。

研修は、佐賀県で養鶏のプロイラを勉強いたしました。ウインドレス・システムのプロイラを学びたかったけれど、結局普通のプロイラをすすめられました。研修中にウインドレス・システムのプロイラを見に行きましたが、ブラジルには合わないやり方と金額がかかるシステムなので、とても融資が出ない国には、できないことがわかりました。

研修先では、自然の飼料、炭を混ぜた飼料、電水を飲ませたり、ビタミン剤、薬を使う試験などをしました。結果は、薬を使ったプロイラは太りますけれども、炭や自然の飼料を使った方の肉の質が良いのわかりました。

また、自動給水機と自動給仕機の使い方と修理が出来るようになりました。

冬になりますと、ブルーダヤストブとスチロールを回しました。夏には、ダクトファンや扇風機と

きりさん風をすることもできました。入手から出荷までは、全て出来るようになりました。でもブラジルで又試験をやらなくてはいけません。日本で学んだ技術はためになりました。

佐賀ですから、田植や麦まきから稲と麦かりまでしました。その外には、お茶とみかんの栽培をするチャンスもありました。

生活は、とてもブラジルと変わらない所でしたので困りませんでした。又、米がおいしいので、夏から冬にかけては太りました。

ただ日本語の勉強をしなかったのが一番の失敗だったと思っていますので、これからは頑張ります。

前 期 研 修 を 終 え て

額 川 弘 幸 (ブラジル トメアスー)

日本へ来て早くも1年が過ぎました。今思えば昨日の様でとてもなつかしくなります。

僕は熊本県畜産試験場で豚の管理を1年ほどして参りました。そこで学んだことといえば、まずはじめに産肉能力直接検定の試験の仕方でした。そして2ヶ月ほどしてから豚が分娩する時には、どのような申をしたら良いか、試験場の方と一緒に泊り込みで分娩する豚の管理をしながら学びました。この他小豚の去勢の仕方や通し番号のつけ方等学びそして、トンコレラの注射のうち方や人工受精の仕方などを学び、また種豚の管理をしたり、精子のとり方や保存のしかたなどを勉強しました。

家畜の品評会がある時は見学に行きました。このほか農家へも見学に行きました。それから屠殺場へも何度か行き、屠殺の仕方等見学しました。

僕が一番見学していて印象に残ったのは、屠殺場でメタンガスを使っていることでした。

冬にはハムの実習に行き、ローズハム、プレスハム、ソーセージ、ベーコンなどの作り方を学びました。2月には豚を屠殺して、枝肉の骨のはずしかたなどを学びました。

下宿先では食事をした後皆んなでテレビを見ながら過ごしています。日曜日などには友達の家へ遊びに行ったり、親戚の家へ行ったりしていました。

昨年の12月から今年の1月にかけてとてもお酒を飲むチャンスがありましたので、とても良い思い出ができました。

日 本 の 印 象

嶋 田 千 草

岩 見 美 砂 子

善 村 エミリオ

羽 鳥 光 枝

福 原 勉

河 村 ビオレッタ

日 本 の 印 象

嶋 田 千 草 (ボリヴィア サンファン)

これから18ヶ月間自分が暮らす日本はどの様な所かと、希望と不安を抱きながら4月5日の午後、私達は無事成田空港に着きました。空港から横浜移住センターに来る道中さまざまな景色を見ましたが、中でも印象的だったのは何と云っても桜の花でした。

初めて見る両親の生まれ故郷、秒単位で連発に走る電車、整備された道路、手入れの行きとどいた木々、草花、やっぱり日本だなと思わされました。反面、この様な所が日本にもあるのかと思われるような一面も見えました。

鎌倉見学では自然の美しさを見、感じる事が出来たのですが、日本の歴史をあまり知らない私は、もう少し勉強しておくべきだったと後悔さえしました。

三溪園へ行く途中、桜の並木道を歩きました。ビデオ、本、話にしか知らなかった桜の花吹雪、それを膚で感じている私、とにかく夢の様でキレイ、キレイの連発でした。

人口が世界一密集している東京、車と排気ガス、ひどい公害、これらは移住地を出る時の私の予備知識でしたが、想像以上だったので驚きました。又、朝夕の猛ラッシュ、ゴミゴミ、セカセカと忙がしく歩く人々……それに対し南米から来たばかりの私達は、のんびりした環境の中で育った為、普段からの時間のルーズさがあらゆる面に表われ、皆について行けないのではないかと不安さえ感じました。

今日までの私達は日本の良い面だけを見て来たので、これからはもっと沢山の事を見、吸収したいと思います。慣れるまでは時間がかかりそうですが、何も知らない私なのでJICA本部を始め支部の皆様、よろしくお願い致します。

日 本 の 印 象

岩 見 美 砂 子 (パラグアイ アスンシオン)

日本で勉強したい、と言う長年の夢がやっと実現し、昭和57年4月2日、私は国際協力事業団の第12回移住者子弟技術研修生として、無事成田国際空港に到着しました。その日は、事業団の研修生担当者、又、先輩達の暖かい出迎えの言葉で、慣れない旅の疲れを取ることができました。

私達子弟研修生一行18名は、日本に来て約1週間にわたって横浜移住センターにて合同研修を受けました。

合同研修は、「研修旅行」と「講座」に分かれ、国際協力事業団本部と外務省に挨拶。研修旅行には、鎌倉、三溪園、スプリング工場、東京（明治神宮、皇居、東京タワー、NHKスタジオ、他）の見学でした。

これらの見学で、まず印象的だったのは桜の花の美しさです。場所によっては満開に咲いた桜を見て、桜吹雪の中で……………又ある場所では葉桜と共に見物しました。

この桜の花は、パラグアイ国で知られているTUNG（油桐の木）の花に遠くから見ると、どことなく似て興味深く、花ピラを拾って見てびっくりしたのは、花ピラの花が細かく分かれ、ひとつひとつがきれいに並んでいることです。又桜の花は日本の国花とはいえ、公園、神社、校庭 etc. あらゆる所で大事に育てられている事です。

パラグアイで「日本は、緑の少ない国だ!!」とか「日本の文化は変りきってしまった」と、よく聞かされて来ましたが、緑が少なくないだけに、緑、又、日本の伝統なる文化が、大都市の中でも場所によってはいかに大事にされているか、と、鎌倉、三溪園、明治神宮などで強く感じました。三溪園は日本の実業家、原富太郎氏によって造られ、明治39年5月1日に開園されたと知られていますが、今日に到るまでどんなに大切にされたかがわかります。

日本の交通について驚いたのは、立体交差の高速道路です。下を見下すと、ちょうど糸がもつれた様に重なっている道路、何処へ行ってもある親切な交通標識と交通に対する注意事項です。

講座は、事業団担当者による、研修先、日本の地理、歴史 etc が説明された他、先輩達との合同研修です。先輩達の日本の生活状況経験談、失敗談によるアドバイスとはげましの言葉は、今から見知らぬ土地、見知らぬ所で勉強していく私は、ずい分勇気づけられました。

この研修期間、専攻分野だけでなく、どの国でもある良いところと悪いところを見て、その良い部分だけを吸収し、帰国後何かの役に立てたいと思っています。

この1週間の合同研修は、日本の名所を見学しただけでなく、今から先、目的は同じでもそれぞれ違った所で勉強して行く私達にとって、どんな事が待っているかわかりません。そんな私達にとって日本に慣れる為又同期生、先輩達との顔見知りの意味でも、すごくプラスになり感謝しています。私の研修について、ずい分お世話になったアスンシオン支部を始め、事業団担当の方々、先輩達のはげましの言葉を一言一言思い出し、12年続いたこの研修制度が20年、30年、と何時までも続くように、この1年半の研修を一生懸命頑張りたいと思います。

本部を始め、担当支部の皆さん、よろしく御指導お願い致します。

日 本 の 印 象

善 村 エミリオ (パラグアイ チヤベス)

昭和57年4月2日、国際協力事業団のおかげでパラグアイから第12回研修生の一員として、日本へ農業機械の勉強に来ました。

生れて初めて、父の生まれた日本の土を踏みました。

横浜の海外移住センターに来て、早くも9日間が過ぎ、私達はこの9日間に日本の色々なことについて話を聞かせてもらい、学び、色々な人と出会いました。

日本に来た日は寒い曇りの日で、ちょうど桜の花が満開でとても美しくかった。同じ研修生の田中さんは、はじめて桜の花を見たときは、ツング(油木)の花が咲いているといいました。とてもよくパラグアイの油木の花に似ているのです。

日本に研修生としてくることになった時、親から色々和日本の事を話してもらい、日本に来て見てやっと信じられる事がたくさんありました。

一番感じたのは、町の狭い所に建物が沢山立っているのと、人が沢山忙がしく歩いているのと、自動車が沢山走っている事でした。

色々な所に見学に行き、江の島、鎌倉、三溪園、東京はとバス一日コースで東京タワー、NHK放送センター、浅草、明治神宮、新宿のビルディングがとても素晴らしかった。

横浜のNHK日本発条株式会社を見学し、この会社は、自動車の板ばね、巻ばね、トーションバー、スタビイザ、シートを作っている工場です。

この1年半を頑張って勉強と研修をしてパラグアイに帰って、コロンビアや国の発展の為に尽したいと思えます。

日 本 の 印 象

羽 鳥 光 枝 (ブラジル レシーフェ)

私が日本へ来てからちょうど1週間たちました。私の思ったとおり東京はとても発達した、きれいでとても便利な町です。桜の花が美しく、どこへ行っても咲いていました。

人間の勝れた日本の国は、ブラジル国の人とは考え方が違っています。沢山の人が忙がしそうに歩いています。私は暑い国から来たので、日本の寒さがはだにしみました。日本の皆さんは日本の国のレベルの高い便利な、それにきれいな国のために、いつも気を使っていると私は思いました。

この1週間は素晴らしい毎日を過ごしました。4月2日に私達は成田空港から海外移住センターまでバスで19時30分に着きました。初めの日には自己紹介と歓迎会がありました。その次はJICA本部と外務省に挨拶に行きました。それから見物にいろいろな所へ連れて行かれました。横浜の三溪園では一般の人は見られないところまで、特別に見せてもらいました。工場見学にも行きました。パネを作るインテルナショナルの工場です。それからマキ先生、センターの中島所長がいろいろな歴史、文化のお話をして下さいました。日本のことも少しずつ分かってくるような感じがしました。東京は本当に見事な町です。昨日東京見物に行った時見ました、明治神宮などは本当に東京の町の中に大きなボスキが空気をきれいにするためにあるように見事に残されています。ボリヴィア国から来た私には、この日本の文化の勝れた町で勉強出来るのは本当に心から喜んでます。私は漢字がよく書けないので心配しています。でも今までつきあった方々はとても親切だから、あまり考えないことにしています。JICAの人達に心からお礼申し上げます。今から1年半お世話になります。私は一生懸命頑張ります。

日 本 の 印 象

福 原 勉 (ボリヴィア サンファン)

昭和57年4月5日午後2時30分に、ボリヴィア国サンタクルス州サンファン日本人移住から、「第12回子弟技術研修生」として、日本に着きました。

私が生れた日本を幼ない頃父母に連れられ、この故郷を去って南米ボ国に行きました。

あれから、19年後に再度我が故郷の土を踏ませて頂く事が出来たのが夢のように感じております。

現在、横浜にある国際協力事業団、海外移住センターで数日間過ごしております。

その間、日本の歴史や現在の色々な物事を見学して感じたことは、私が想像していた以上のものでした。

春先の日本は、季節の花を咲かせ、自然の美しさを見せていました。それは歴史のある国だからだと思いました。

やはり世界一と言われる技術的に発展している所を現実に見る事が出来ました。

そして、あれほどの人口を便利のよい日常生活を送らせているのは、先進国の素晴らしいところと思いました。

また、交通に関しても同じ事です。

今は、初めての事で色々苦労すると思います。

この数日間に初歩的な事を知りましたが、大変良い事ばかりです。

これをもって日本の良い所をしっかりと勉強し、技術を身につけたいと思っています。

日 本 の 印 象

河 村 ビオレッタ (ペルー リマ)

日本に着いてもう1週間たってしまいました。成田空港に到着したのは4月2日の午後3時半でした。成田空港は新しく大変便利で立派な建物です。成田空港を後にして、横浜へバスに乗って行きました。高速道路を走っていた時は、やはり日本の道は大変大切にしていると思いました。そして、運転する人達もよく注意をしておりますので、ペルーに比べて交通はとって安全に感じました。けれどもその道の横に立ちならんでいる建物とかアパートはあんまり良い感じはしませんでした。それは、そのアパートの外にはふとんとか服が干してあるのが道から見えるからです。それから移住センターに着いた時、11回生の皆さんに挨拶した時は、本当に私は日本人だと思いました。

次の日はペルーから来ている研修生の瀬戸さんとブラジルの友達と一緒に横浜へ行きました。駅に下りた時、日本人は走っているような感じがしました。それからデパートとか店に入ると沢山の品物がなっていました。しかしその品物の値段を見ると驚きました。日本の四単位ごとに数える事にはなれていないからです。その後レストランに入りましたが、西洋料理にお砂糖が入っているのはあんまり口に合わなかったです。しかし、日本ではゆっくり物を見たり、ごはんを食べる事も出来ない国です。

電車に乗って帰った時、とって疲れていました。誰も席を譲って来れなかったもので、やはり日本では男は先だとわかりました。

今日本では、どこに行っても桜の木が植えてあります。そして木は大切にしていますから、東京の人口が多い所でも自然が見られる所は沢山あります。

この1週間の間、いろいろな所へJICAの方が案内して下さいました。その時には大変混雑していた電車又きれいなバスとかを利用していろいろな所へ見学に行きました。江戸時代から残されたさまざまな建物、又は会社とか文部省、しかしもっとゆっくり見たかった所が沢山ありました。残念ながら時間が短かったため見た感がしませんでした。この1週間の間に、いろいろなお話とか意見を聞いたりして、とって楽しくすごしました。これも大変良い勉強になりました。

研 修 総 括 報 告 書

研修総括報告書



熱海正明 (ブラジル セバ스티アナ)

1. 研修機関 (1) 前期 農林水産省十勝種畜牧場 (昭和57年4月～58年3月)
- (2) 後期 北海道襟裳肉牛牧場 (昭和58年4月～58年9月)

2. 研修期間 昭和57年4月～昭和58年9月

3. 研修職種 畜産 (肉用牛)

4. 当初の研修計画 (テーマ、研修内容等)

畜産肉用牛, 主に家畜の管理と肥育

5. 研修概要 (具体的研修内容及び成果)

研修前期は農林水産省十勝種畜牧場と研修後期は襟裳肉牛牧場での実習を受けました。

畜産肉用牛は自分の専攻で有った、でも十勝種畜牧場で畜産全体の研修を受けました。

襟裳肉牛牧場では、肉牛について実習を行ないました。

肉用牛について十勝種畜牧場は試験場と同じ、自分は肉牛を主として研修を受けました。又実習について一週間交代で育種と肥育の方へ行きその間に色々な講義が行われた。又理論の方は少なくとも週に2回受けました。受けた講義は肉用牛についてだけではなく、畜産農業について全体的な講義を受けました。その他の講習は農業機械研修と人工受精師講習会が行われました。

人工受精師について長い間実習しました、それは発情の発生から種付け、又種牛の管理、その間に精液採取まで実習の時行われた。

肥育では年間同じ計画で、毎日放牧検視 (夏の間)、冬は山で分娩を行うことで毎日検視に行っておサ (サイレージと乾草) を与え、又牛舎の方は肥育牛も居るのでサイレージ、乾草と農耕飼料を与えます。

病気、治療の方法は実際実習時は自分で発生した事はありません、ただ理論で分かっていました。

昭和58年4月に襟裳肉牛牧場に実習に行くことにしました。丁度春先で寒くて、まだ山に雪が残っていました。又、襟裳牧場は非常に風が吹くところです。12月から4月の間に襟裳牧場で子牛の分娩が行われる。4月に実習を始める自分は生れた子牛の管理から始めました。春先は雪が解けて牛舎は汚れて生れた子牛は病気に罹りやすい、それで毎日の管理で病気が発生しても色々な治療方法で病気を抑えることを学びました。

5月には分娩を終ってから牛 (母子) として群に分けて放牧して出します。8月まで放牧して9月上旬に離乳、雄、雌、販売に分けてまた放牧地に出します。

濃糞牧場は、実習としては最高のところだと思います。種畜牧場で出来なかった実習が濃糞牧場で出来ました、例えば管理、肥育、良いエサ（草、農耕飼料）、良い牛（種牛、雌）を覚えめました。又牧場の方も親切で色々教えて貰えました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

北海道へ来て畜産について研修を受けた自分は、思った以上に研修が出来ました。畜産について経験のない自分は、日本へ来て計画どおりに進みました。ブラジルでは一年半で畜産全体に研修および実習は考えられない。最初は、研修内容は理論の方が多くて専門用語が殆んど理解出来なかった。自分の努力で少しずつ学びました。又同じ研修生から色々教えて貰いました。

又先生方にも大変お世話になりました、本当に有難うございました。

7. 合同研修会について

合同研修会はこの一年半で4回行なわれました、でも今までの合同研修会はとても楽しかった。同期と会って研修内容又生活の問題についてお話をしたり又先輩達から色々な意見、例えばその時までの研修内容、生活、見学についてお話しをしました。後輩から国（ブラジル）の事について話し合うことも出来楽しかった。北海道へ研修して来てから殆どブラジルの話は出来なかったですから皆と会った時思い切り話すことが出来ました。又、楽しい研修旅行も何回も有りました。温泉で泊って皆と飲んで騒いで、今でも思い出になり、いつまでも忘れないことと思います。

8. 本邦での生活状況

日本での生活は一年半寮生活で特別な問題は有りません。私の場合はこの一年半の研修では食事の心配はなかったので良かったと思います。又寮の食事も良かった。最初の内は街へ買物に行くのに大変苦労しました。買いたい物はデザインを見て買いました、その他は友達と一緒に行くのが多かった。

一番心配であったのは種畜牧場で、同じ研修生と生活を始めるのが非常に難しかった。例えば話しが合わない（考えかた）、多分生活と年の違いだったと思います。今考えると自分には一つの経験で有ったと思います、又思い出に残るのではないかと思います。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

研修期間をもっと長くして欲しい、自分はそう思います。多分、中には早く帰りたいと思う人もいるかもしれませんが、今後の子弟研修にはなるべく専門学校等で研修出来ればと思います。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

日本へ研修に来るのは夢だった、今実際に日本へ来て研修を受けて良かったと思います。又日本へ来る機会は少ないので自分は今回日本へ来られなければ二度とチャンスはないと思います。自分は父の古里にいつか行くと考えていました。でも思ったより早く実現出来ました。

今月、昭和58年9月で、もはや一年半の研修が終わります。過ごした一年半は思ったより短く、もっと長ければ計画を広げられると思います。色々な専門学校では、卒業まで少なくとも2

年間かかります。

畜産について研修を受けた自分は思ったより良い研修が出来ました、又来た当時新生活を始めるのは本当に悩みました。でも他の研修生と違って私の生活は悩まないで早く慣れて順調に進みました。

十勝へ来て先ず日本語の勉強を早速始めました。先輩達を見て皆日本語が上手なので自分も負けないように頑張っていくと言う気持ちがありました。

研修前期、種畜牧場で最初から色々講義が有って大変苦勞しました。理論又専門用語、自分にはとても聞きとれなかった。又先生方は親切で大変お世話になりました。講義中に色々な説明をして貰いました。

自分はまた実習に行きたい所が有りました、それは肉牛の販売、自分で肥育した牛は食料品として良いか。

6カ月間は襟裳肉牛牧場で実習が出来て最高だったと思います。肉牛全体について実習出来ました、又牧場の人々も親切で色々とお世話に成りました。

畜産全体の研修を受けた自分は帰国後の計画は、まず最初はブラジルの畜産について色々研究して自分で牧場を始めたいと考えています、勿論日本で受けた研修と比較して始めたい。ブラジルでの管理又季節が違うから、まだまだ勉強しなければならないと思います。

最後に牧場の人々、又研修の機会を与えて下さった国際協力事業団の皆様長い間色々とお世話になり誠に有難うございました。



額 川 弘 幸 (ブラジル トメアス)

- | | |
|---------|------------------------------------|
| 1. 研修機関 | (1) 前期 熊本県畜産試験場
(2) 後期 有限会社朝日畜産 |
| 2. 研修期間 | 昭和57年4月～昭和58年9月 |
| 3. 研修職種 | 養豚、食肉加工 |

4. 当初の研修計画(テーマ、研修内容等)

昭和57年4月～58年3月熊本県畜産試験場で養豚の研修をうけました。

昭和58年4月～58年9月(有)朝日畜産バルクミートで食肉製造加工業の研修をうけました。

5. 研修概要(具体的研修内容及び成果)

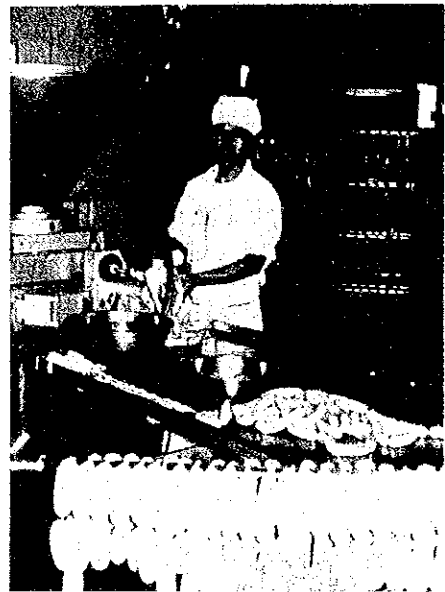
私は4月14日に熊本県菊池郡に有る、熊本県畜産試験場に入學し、養豚の勉強をしました。この家畜について研修した内容はつぎの通りである。

4月から卒業するまで養豚の勉強をしながら、学んだことといえば、サンニクノウリョクチョウ

セツケンテイ、豚への通し番号の登録のしかた、トンコレラという病気に対しての注射のしかた、種豚オークション見学、繁殖豚の管理、人工受精のしかた、分娩のしかたと、その後の管理のしかた、種豚の管理のしかた、雄豚の精子のとりかたや保存のしかた、子豚の管理のしかた、雄豚の去勢のしかた、豚の肉と肉質の見比べかた、豚の屠殺のしかた、肉のセイケイのしかた、肉の加工のしかた、家畜品評会見学、流通センター見学、等をこの一年間に学んでまいりました。
(後期研修)

後期の研修は、(株)朝日畜産ベルクミートで加工の研修を受けました。最初、入ってすぐは、加工について経験がありませんでしたので、なにがなんだかわかりませんでしたので失敗ばかりでした、でも会社の人達がとても親切に、分かりやすく教えて下さったので、日が立つにつれてすこしずつおぼえ、そしていろいろな種類のハムソーセージを学ぶことができました。この加工について、学んだことをまとめて見ると、つぎのようです。

ソフトサラミ、モーニングサラミ、ボックソーセージ、ポークソーセージ、ポークウイナ、ポチギスフランク、ポチギスソーセージ、ポーク&ビーフ、フランクフルト、ドイツフランク、ローズハム、ドイツハム、アイスバイン、ローズベーコン、ベーコン、スペアリブ、ホワイトソーセージ、生ハム、スモークチキン、ピピカルア、ボンレスハム、馬刺のくん製、それから総菜関係でローストビーフ、ハンバーグ、クリームソース、ウッドチーズ、ブルーメンドテルバター、ジャーマンチキン、コルトンブルー、ミートパイ、ペアハム、等を学びました。



6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

私は、畜産加工技術を身につけて、将来ブラジルへ帰ってから、すこしでも私達の町が豊かになるように役立てるため、加工技術を学ぼうと思い、日本へやってきました。でも私が希望していました手づくりの加工のしかたは、ほとんどやっているとおりありませんでしたので、一応家畜の管理のしかたを学び、その後手づくりに近い加工会社へ移って勉強したらと教えられましたので、一年間養豚の管理のしかたを学び、そしてその後加工のしかたを学びました。

私は思ったとおりの研修が出来たと思っています。

7. 合同研修会について

日本での十八カ月間の研修には、合同研修会がどんなに大切か、自分自身で思いついたことを

申し上げます。

私は、日本についてから不安と心細さのあまりで、研修先へいったらどのようなことをやってゆけば良いのか、この合同研修会で先輩達から教わりました。それから再び6カ月間の研修を学んでから行われたとき、私は最初と違って、もっと生き生きした態度を示すことができ、仲間達とも大変親しみができ、今迄の悩みやホームシックにかかりそうになったことなどは忘れ、皆と研修内容を話したり、いろんな所を見物したり、あるいはホテルでカラオケをうたったりすることができ、本当に私達研修生に最高の思い出ができました。

8. 本邦での生活状況

日本での研修生活はとても楽しいことばかりでした。最初の3カ月間は一人で住んでいたので、少しさびしいこともありましたが、でも7月にはバングラディッシュから熊本へ勉強にこられた研修生と一緒に学ぶことになりましたので、とても楽しい生活がおくれました。

夜はみんなと色々な話をしたり、テレビを見たりして過しました。日曜日や祭日の日には熊本にきている研修生や留学生たちのアパートへ遊びに行ったりしていました。

夏には、YMCA、UWESLD、SEINENのFUNNEの方達とキャンプへ行ったり、友達と海へ海水浴に行ったりしました。秋にはモミジを見に山登りをしました。それから女子学校へ文化祭の見物に行ったりしました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

日本へ自分の希望を実現しようと思ってやってこられる方が沢山いることと思いますが、研修先へ行かれてからいろいろな問題点があることと思いますので、できれば、私達と同じ二の舞を踏まない為にも、少しでも多く日本語の勉強をやってこられたらよいと思います。

それから研修はなるべく一カ所で受け、できるだけ多くの技術を身につけて、帰られたらよいと思います。

10. 所感(帰国後の抱負を含め)

生れてはじめて父や母の生まれ育った国へやってきて、もう一年と6カ月間が過ぎました。いま思えば昨日のようで、何だか夢のようです。

私は日本へついた当時、父や母が言っていた日本とはまったくちがった国でしたので、何だかとても不安でした。でも日々がたつにつれ、生活にも慣れ、自分の思っていたような研修が出来るようになりましたので、ブラジルへ帰ったら、父達と一緒に農業をやって行きたいと思っています。そして将来畜産を行いたい。日本で学んだ技術を自分なりにいかして行きたいと思っています。

また、機会があれば、村の青年達に、日本での出来事、日本人との生活内容、研修内容、日本人の仕事に対する細やかな神経の使い方などを話したいと思っています。

研修期間中終始見守って下さいました国際協力事業団の皆様、ならびに御指導下さいました研修先の方々へ心から御礼申し上げます。



岡 浩 (ピラジール ベラピスタ)

1. 研修機関 (1) 前期 香川県立高松高等技術学校
(2) 後期 松下電器産業株式会社 海外研修所
2. 研修期間 1982年4月～1983年9月
3. 研修職種 弱電修理(テレビとビデオ)

4. 当初の研修計画(テーマ、研修内容等)

テレビとラジオの組立と修理

5. 研修概要(具体的研修内容及び成果)

高松高等技術学校で一年間電子関係について、配線工事、ガイツピキ工事、ケーブル工事、電子工学、電気機器、電気理論などを勉強しました。

それから後期研修は大阪へ来まして、松下電器テレビ事業部、ビデオ事業部で実習をしました。テレビ事業部ではテレビの組立、調整をやりました。ビデオ事業部ではビデオの組立、調整、検査と実習をやってきました。

この半年間松下電器で実習をやりましたので充分勉強になりました、それは皆さんによく教えていたとき、やりたいことがあればやらせていただきました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

研修計画にはラジオとテレビでしたが、ラジオをやめましてビデオにかえたのがとても良かったと思います。ビデオはブラジルではこれからなので、ビデオの経験がある人達がいなくて、ビデオを選びました。

ビデオについては、ぼくが思っていた通りよりも勉強になったと思います。

7. 合同研修会について

日本で沢山の友達と一緒にブラジルの事、日本の事をお互いに話し合ったり、遊びにいろいろよくしました。

8. 本邦での生活状況

この18カ月、日本での生活はとても良かったと思います。病気もせず、食事もうまいので、元気で頑張りました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

ぼくが思うのは日本語が出来る事、それから研修内容について少しでも勉強していた方がわかりやすいのではないかと思います。

10. 所感(帰国後の抱負を含め)

日本へ来る前にお父さん、お母さんから一番に言われたのは、スリが多いので気を付ける事でした。しかし、日本へ来て見ると、スリはいませんでした。皆ない人達で、学校も仕事もよく

頑張りました。

この18ヵ月間日本で勉強をしまして、日本は時間を守る事、それとごみ等はごみ箱に入れる事が守られておりきれいな国です。

ぼくはブラジルへ帰ってから、マナウスの松下電器の工場で働きたいと思います。日本で電子の勉強をしてきたこと、松下電器でテレビとビデオを習った事を、国の為、ぼくの為にもいっしょうけんめい頑張ります。日本で勉強が出来たのは、国際協力事業団の皆様のおかげです。本当に有難うございました。



羽 鳥 光 枝 (ブラジル レシーフェ)

1. 研修機関 (1) 前期 慶応義塾大学医学部寄生虫学教室
(2) 後期 慶応病院中央臨床検査部細菌科
見学 山梨衛生公害研究所 筑波大学
国立予防衛生研究所

2. 研修期間 1982年4月～1983年9月
3. 研修職種 寄生虫学, 細菌学, 電顕(超微形態学)
4. 当初の研修計画(テーマ、研修内容等)

当初の研修計画としまして、1年間はいろいろな寄生虫の勉強を中心に、検査診断のための抗原の作り方、保存のしかた、皮内反応のしかた、電顕試料の作り方、そして6ヶ月間は、細菌検査を習う計画でした。

5. 研修概要(具体的研修内容及び成果)

1982年4月19日から、慶応大学医学部寄生虫学教室で寄生虫の研修を初めることになりました。いろいろな培地の作り方、タナベチバ、バラムスは、アメーバの培養に使います、NNNは、トリパノソマの培養に使います、M-199はライシェマニア ブラジリエンスとドノバニの培養に使います。LITはトリパノソマクルージの培養に使います、チスティンブイオン血清(アサミ培地)は、トリコモナスの培養に使います。いろいろな染色液、溶液、かんしょう液の使い方、ギムザ染色液、シヤウジンの固定液、トリスバッファPH7.5、リンゲルバッファー、ハンクスバッファー、ドルベックPBS(-)バッファー、ヨードヨドカリ液、エオジン染色液、ヘパリンこうぎょうこうざいの使い方、アメーバのゲル内沈降反応、間接赤血球のぎょうしゅう試験、アメーバの免疫蛍光抗体法、シヤーガスの免疫蛍光抗体法、エオジン染色法、回虫卵を濃縮する方法、いろいろな検便方法、M.G.L(ホルマリン エーテル法)、濾紙培養法、直接法、タナベチバの培地を使って培養する培養法、マンソン住血吸虫の発育史、マンソン住血吸虫の虫卵周囲沈降反応(C.O.P)、虫

体染色方法、アメーバの染色、トリパノソマクルージの抗原の作り方、ミラシジュウム染色方法、電子顕微鏡の使い方、ガラスナイフの作り方、ウルトラミクロトムの使い方、電子顕微鏡写真のとり方。

筑波大学見学は特別に無菌動物室が私の目的だったのですが、先生方が学会のために留守だったので動物室は見せてもらえなかったけれど、ほかにいるいろいろ見学しました。

山梨衛生公害研究所見学については、HORIMI先生から日本住血吸虫のお話を聞き、MINAI先生から貝の住んでいる場所へ案内してもらいました。今は貝はいても感染はしてないと言われました。日本では住血吸虫との戦いは終わった様子です。甲府市立病院では林先生から、いろいろ住血吸虫病の治療の話をお聞きしました。土曜日には8時から4時半まで公民館で住血吸虫の調査があったのでおつたいました。貝の殺貝にはいろいろな薬を使ったようですが特別に石灰(CaCO_3)とP.C.P.を使ったと言われました。今、山梨県では住血吸虫病にかかるおそれはないそうです。住血吸虫のELISA法についての実習は国立予防衛生研究所でおこないました。

講義と実習にも医学部の学生さんたちと一っしょに参加しました。

微生物の方でも初めは、培地作製をしました。培地の組成と使用目的判定、滅菌方法、試薬作

製一試薬の組成判定、菌数計算、尿路感染症における菌数の意味、薬剤感受性試験一方法と菌種による薬剤パターン、確認培養及び同定一菌種の同定(確認培地と同定キット尿、一般細菌の菌種同定、糞便常在菌と病原菌の見分け方、咽頭粘液、咯痰一常在菌と病原菌の炭酸ガス培養方法、膿、浸出液、一般細菌と嫌気性菌の同定、分泌物、一般細菌と嫌気性菌、嫌気性培養方法、髄液：説明のみ、血液：説明のみ、結核菌検査：鏡検による菌検索、前処置、培養、判定、薬剤感受性試験

6. 当初の研修計画と実際の研修内容を比較して

私の研修目的は、いろいろな寄生虫の抗原の作り方と保存のしかた(凍結乾燥)、たんぱくの定量方



法、皮内反応だったので、それ以上勉強できましたのでとてもよかったですと思います。後期研修期間がもうすこし長かったら血液検査も習う事が出来たと思います。

7. 合同研修会について

合同研修会については、とってもいい事と思います。私たちはみんなと会う日を数えて待っていました。何だか家族と会えるような気がして、とてもうれしい感じがしました。ブラジル語も話す事が出来、またブラジルの習慣がとりもどせ、ストレスの解消ができ、そして楽しい研修旅行、心から感謝しています。

8. 本邦での生活状況

ブラジルにいる家族を後にして、日本へ研修に来た私には、いろいろな苦労もありましたけれどもなんだか運がよくて研修先では、先生方がポルトガル語が話せてとってもラッキーでした。日本で生まれた私にとっては、日本人からつめたくされた時はとても悲しい思いをしました。ブラジルを出て始めてブラジルが私の生きて行く国だと思いました。東京での生活は私が住んでいた町とはちがいが、初めの頃は大変でした。電車の乗り換え、大勢の人々がいつも時間に追われて忙がしそうに歩いていて、私はその人達といつもぶつかっていました。特別に新宿駅とか東京駅ではこまりました。

日本はとても便利できれいな国と感じました。日本の習慣になれるまでは、ずいぶん気を使いましたが、今は日本の生活にもなれて、いろいろな人達、有名な先生方と触れ合う事ができて、とても幸せでした。大変お世話に成った慶応病院、山梨衛生公害研究所、国立予防衛生研究所の先生方には心から、厚くお礼申し上げます。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

今後来日する研修生たちには、一生懸命日本の習慣にとけてんで勉強にはげんで、一つ何か役に立つものを身につけ、自分の国で待っている人々のために、すこしでも協力出来るよう、事業団には、これからも多くの方が研修出来るようにしてほしいと望んでいます。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

私はブラジルへ帰ったら国立ペルナンブゴ大学医学部病院で、お仕事をすることになっているので日本で学んだ事を日系人や、ブラジル人のために、すこしでも役に立つように、続けて行きたいと思っています。

日本の皆さんとも、お別れすることになりますが、本当に有難うございました。



麻生ルイス裕三（ブラジル イタチ）

1. 研修機関 (1) 前期 福岡県八女市大字恵見 藤田恵（花卉農園）
(2) 後期 福岡県農業総合試験場園芸研究所
2. 研修期間 昭和57年4月～昭和58年9月

3. 研修職種 花卉栽培

4. 当初の研修計画（テーマ、研修内容等）

私は国際協力事業団の第12回移住者子弟研修生として、日本に花卉の勉強にやってきました。目的は、父がバラ、キク、カーネーション等を栽培しており、私も今後花卉栽培を行なうので、もっと優れた技術（選定、土作り、育苗、その他の栽培管理病害虫除）を学ぶ事です。また、ブラジル以外の国でも友人を多くさん作りしたいと思います。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

前期は福岡県八女市の藤田恵氏宅で一年間研修を行ないました。

最初は日本の生活に慣れるのに大変でした。特に方言は全くわかりませんでした。それでも藤田さんは親切に私を指導して下さい大変感謝しています。

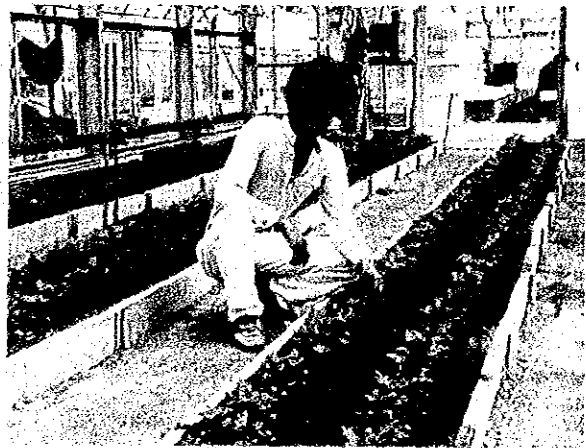
4月にはまずキクの親株を育てる事と、カーネーションの苗の仮植をやりました。良品を作るには、苗から上手に育てなければなりません。ブラジルでやっていた事も間違っていないでした。しかし日本へ来て、それ以外のやり方がある事がわかりました。

5月、6月これから植えつける場所の土壌消毒、これは土壌中の病原菌害虫、雑草の種子などを殺す為にするものです。日本は土地が非常に狭いので毎年同じ場所で栽培しなければなりません。そのため土壌消毒は特に重要な作業です。特にカーネーションは病気に弱く、この作業をおこなうと良い品はできません。

キクのさし穂は1～25℃、3～4週間低温処理をします。これからはキクの品種にもよります。問題は花芽が形成される時13～15℃の温度が必要となるけれど、低温処理した苗は8～10℃でも大丈夫です。

8月9月は土作りで肥料は有機物主体で、化学肥料は少なく使います。

10月はハウスにビニール被覆しました。



日本では花の栽培は施設内で多く行なわれています。

12月は花がよく使われるので、一年で一番忙しい時期となります。一日で2万800本も集荷することもありました。八女の花集荷場には一日120万本もの花が送られて来たこともありました。年末に切り終ったキクはその後、冬至芽をツベレリンで処理し、加温することによって、3～4月に再び開花します。

後期は昭和158年4月から、福岡県農業総合試験場でカーネーション、バラ、テッポウユリ、カスミソウツツジ、キク、シクラメン、グラジオラス、ミヤコワスレ、トルコキキョウなどについて試験。(作型、冷蔵値調剤(ホルモン剤)温度)のための栽培管理を行ないました。

最近、ウイルスに汚染されていない健全な植物を得るため、さらに多量の植物体を得るために組織培養がさかんに行なわれています。

9月にカーネーションの生長点培養を行ないました。

日本での研修は私にとって大変為になり、そしていい思い出になりました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

研修については、当初の予定通り勉強出来ました。花についての勉強だけでなく、日本での変化に富んだ生活、いろいろな日本人との交流、など貴重な経験となりました。

7. 合同研修会について

合同研修は、私にとって非常に有意義でした。初めて日本へ来た時、先輩達に日本の話を聞いたり、いろいろな事を知って自信がつかしました。後は6ヶ月毎に一度、全員が集まることは、私たちに楽しみの一つでした。

見知らぬ土地へ来て、一年半生活する中で、同じ仲間がいると思うと心強いものです。お互に違う国から来ている者ですが、会うとそれまで別々に暮して来た日本の生活をお互に話し合える事は素晴らしいことでした。その他には日本以外の国の事も知る事が出来ます。研修旅行やスポーツ、パーティ、歌などの楽しみも私にとっては最高の思い出になる物の一つです。これからそれぞれ自分の国へ帰ってからまたいつの日か誰かと会える日を楽しみにしています。

8. 本邦での生活状況

日本に来る前に想像していたよりも生活しやすいと思えました。日本では食物はとっても高いと思っていましたけれど、もらう給料もそれなりに多い、ブラジルでは人の給料はものすごく少なく、食物だけが安く、その他の機械などは日本と同じかあるいはそれよりも高いと思います。

一番日本で素晴らしいと思った事は、非常に便利が良い事です。自動販売機、新幹線、電車、その他。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

これから来る研修生にも、私達と同じようにやってもらったら最高と思います。それから、せっかく日本に来るんだから、いっしょうけんめい頑張ってもらいたいと思います。こんなチャンスは

二度とありませんので、自分の専攻した科目は納得のいくまで学ぶ事が大切です。

10. 所感(帰国後の抱負を含め)

私が1981年にサンパウロ州の農場で研修を受けている時、福岡県の農業技術研修生が2名やって来ました。そこで3ヶ月一緒に暮らし、いろいろ日本の事を知りましたが、さらに実際に日本へ行ってより多くの事を学びたいと思いました。

はじめはどんな方法で行ったらいいのかわからず困っていたところ、福岡県農業技術課から事業団の研修生として日本へ行く方法があると連絡があり、応募しました。

おかげ様で、父の故郷である日本の土を踏む事が出来、嬉しく思いました。

日本に来て多くの事を学びました。楽しい事もつらい事もありました。

今こうして研修が終わってみると、1年半は非常に早く感じられました。日本へ来たのがまるで昨日のようです。

18ヶ月の間皆さんによくしてもらって本当にうれしかった。国際協力事業団の皆さん、それに研修先の先生方本当に有難うございました。

これからブラジルへ帰って、日本で学んだ事を十分に生かし、頑張りたいと思います、そしてまわりの人達にもこのすばらしい体験を伝えて皆さんと共に頑張っていきたいと考えています。

日本で知り合った先生、友達の皆さん、お世話になった人達の事は一生忘れる事はないでしょう。

これから日本から遠く離れたブラジルに帰国しますが、今まで同様付



福岡県八女市の研修先、藤田花卉園の家族に囲まれて

き合って行きたいと思っています。

帰国後花の栽培を行ないませんが、日本に負けられないような作物を作りたいと思っています。

OBRIGADO AMIGOS DO JAPAO. ADEUS, ATE'O PRÓXIMO EN-
CONTRO.



磯田良一（ブラジル ジャカレイ）

1. 研修機関 (1) 前期 稲富養鶏場
(2) 後期 福岡県農業総合試験場
2. 研修期間 昭和57年4月～昭和58年9月
3. 研修職種 昭和57年4月～58年3月（養鶏）
昭和58年4月～58年9月（花卉）

4. 当初の研修計画（テーマ、研修内容等）

進んだ日本の農業技術の中には、種々な研修計画を含めていました。でも、国際協力事業団に申し込むのは、ただ一つだけであった。養鶏のうちでは、ブロイラーの病気の治療、機械の設備、創造、珍しい方法を学びたかった。日本へ来て、ブロイラーだけでなく、花卉も学んで帰る方が良く考えていました。花はキクか洋ランについて、挿し木、定植、灌水、選定などを主にやりたかった。

日本語を学ぶ事とブラジルの友達に日本の農業と生活について資料を集めて帰る計画も立てて来ました。それから両親の国の有名な観光地へ旅行して、写真をとって帰ってみんなに見せるのも一つの計画でした。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

昭和57年4月13日より、佐賀県杵島郡白石町に有る稲富養鶏場において、一年間の研修を始めました。まだ春一番の小寒い季節でしたから、体をならす事に気を付けました。

そこでブロイラーは、ニュー富士、鶏舎はトンネル（円形）型、方式は毎月入手、毎月出荷を9月までしましてからオールイン・オールアウト（総入れかえ）に替えました。鶏舎洗いや、入手の準備、入手、注射、機械の設備、キリ散布、薬を水や飼料に混入、温度の調整、出荷等を学びました。

ブロイラーは、62日から65日に出荷されるようになっていました。1日目のひよ子から出荷まで9回もかく四季の変わりの創造の方法を体験しました。それにしても一番思い付いたのは、動物もきれいな環境における飼育が正しい事と、今の飼料は多くの添加物が混っているのを食べさせて太らせていますから、品質の悪い肉を人間が食べていますので、病人が増えて行きますと、一つずつ添加物が禁止されて行く前に、別な技術を探し勉強もしました。しかし、ブロイラーだけではなく、良く考えて見るとどの食物も菜でできていませんか？

昭和58年4月7日より、福岡県筑紫野市に有る福岡県農業総合試験場において半年間の花の研修を始めました。

花木では、キク、バラ、カーネーション、球根類など本県における主要花卉をはじめ、二年生草花、宿根草花、鉢物について品種、育種、作型、栽培技術、生育開花調節技術および省エネルギー

対策などに関する試験研究をしました。又特産のつつじ苗生産、切枝、促成に関する研究など、時代の要請にともなう課題と取り組みもしていました。花の挿し木、定植、灌水、ピンチ（摘心）葉散、肥料やり、選定、除草、鉢上、調査、電照、ネット張り、土壌消毒などを学びました。その他に講義もあり、見学に先生が連れて行って下さいました。

研修の成果は、僕がますます農業に興味を持ち、動物なり植物の育ちには、丁寧に、きれいな環境に置くのが正しい事が分かりました。これより、あと六ヶ月間の延長をして花の勉強をします。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容を比較して

当初の研修計画には、実際の研修よりも日本にはもっと進んだ農業技術があると思っていました。しかし、国際協力事業団は、僕が希望していた通り、養鶏と花卉の研修をさせてくれました。

実習現場の先生に良く教えてもらいましたが、それなりに自分から別な機会を探して勉強をする努力が足りませんでした。六ヶ月までの延長期間中には、自分の力を出して、研修内容が良くなるように頑張ります。

7. 合同研修会について

僕は、日本で同じブラジルからの友達と、近い南米の友達と知り合い、早くも一年半になります。海外移住センターで出会った時から三景園、東京、鎌倉、江の島、伊豆、箱根、松島海岸、十和田湖、ねぶた祭りなどの旅行とNHK、自動車工場と青森県りんご試験場への見学が楽しかった。第12回生の合同研修が皆な心の中で生きていくように折っています。さようならば、別れの言葉じゃなくて、又逢う日までの遠い約束にしておきましょう。研修を終了しまして、お疲れさまでした。FELICIDADE!

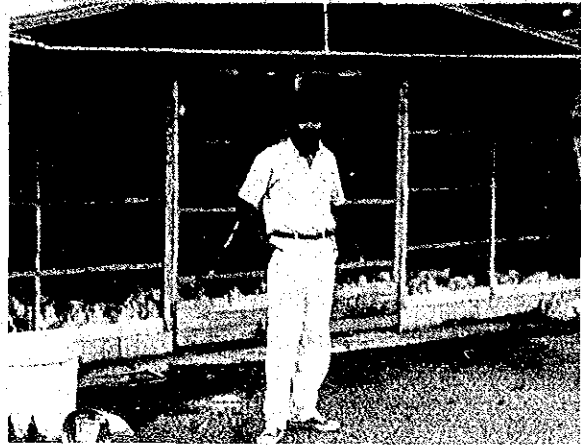
8. 本邦での生活状況

一年間は研修先の家で生活をしました。そこで僕には考えていなかった家族ができました。寒い冬が一番困りましたが、雪の美しさを見ると元気が出て来ました。佐賀の田舎だったのでバツテンサ方言を覚えたからヨカッタイと思っトルトヨ。

残りの半年は、福岡県農業大学寮の寮に泊って、農業総合試験場園芸研究所で研修を受けました。研究所の職員の方や実習生達から可愛がられたのでとてもうれしかった。寮生活については、食事が前の農家に比べると悪いのでやめました。土曜日の夜食、日曜日や休みの日には食事



が有りませんでしたので、バスで通いながら弁当を買いに行きました。そして同じブラジル研修生である12回生の麻生と後輩の野村と井口が一緒でしたから、農大生の仲間が思った通りにできませんでしたので一人の方が良かったと思っています。



9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

今回も子弟研修生の面例を見ていただきまして、有難うございました。今後の子弟研修制度については、次のようにお願いします。研修テーマを選ぶ前に良く相談をしてほしい。なるだけ本人の希望通りにしてほしい。13回生と同じように、日本語の不自由な人に一ヶ月の講習を続けさせてほしい。日本へ来てから半年は、ホームシックにかからないように良く考えてみてもらいたい。一年半の期間は短かいと感じました。

今後は、なるだけ数多くの子弟研修生が来れるようにお願いします。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

昭和57年3月31日に国際協力事業団、第12回移住者子弟技術研修生として、ブラジルを出てからまもなく一年半になります。長い期間中、がまん強く日本で勉強を終了できるのが不安でした。今考えて見ますと、馬鹿見たいです、こんなに勉強の機会が有る国で、滞在期間を延して、福岡県久留米市長門石町に有る山下農園で洋ランの研修を受ける事になりました。

国へ帰るのは、来年の三月になります。僕には、楽しみにして日本への研修に送ってくれた両親が待っています。農業をするのにどのくらいの技術を学んで来るのかも一つの心配でしょう。兄弟、親類と友達に日本の話題を聞くのを楽しみにしていると思います。だから僕は、写真や種々な資料を集めて、発表をするように決めています。

同じジャカレイ市から移住者子弟技術研修生で先輩は、第2回生にたった一人です。僕には第13回生に後輩ができました。しかし、これから子弟研修生をふやしていくのが自分の役目だと思っています。だから子弟研修生を何年でも迎えるのを続けていただきたいと、国際協力事業団にお願いしておきます。

国へ帰ったら、2年間学んだ事を役立てて、農業をやります。家ではブロイラーをやっていますので、始めは、養鶏場の環境をきれいにする、出荷後には鶏舎を良く洗う、入手から出荷まで水、飼料、温度の調整を丁寧にします。落ち着いたら、なるだけ自分で添加物を少なくして飼料を作ったり、薬を数少なくして、自然なような肉の良い質のブロイラーを計画しています。

ブラジルは、西洋ランの原産地である事からカトレア、デンドロビューム、シンピジュームなどをして見たら面白いと思っていますので、あと何年かでやります。しかし、あと六ヶ月の延長期間でどのくらい学べるか様子を見てからにします。ランの勉強がまだ浅い場合は、ブラジルの農家において勉強をしたいと思えます。

自分が勉強した事をブラジルのプロイラー会なり花卉会の中では主に洋ランに対して、全て伝える事にします。

又は若い二世、三世が悪い道を歩き始めましたので、日本人がこれ以上に乱れないように、正しい方向に行くまで頑張って助けて。そして、ジャカレイ市ブラジル日系人青年会のためにも役に立ちたい。

僕が一番大きな夢は、ブラジルで成功して大きい農場を持つ事と再び日本へ来て、親類や友達に会いたいと思っています。

最後に涙が出ますが、いい研修、いい旅行、いい人達、忘れられない思い出が心の中に一杯ですが、僕からのお礼は、親切にして下さった皆さん有難うございました。

さようなら！ ADEUS！



山 田 マリオ (ブラジル レジストロ)

1. 研修機関 国際農友会 (静岡県)

(1) 前期 市川勝泰農家 (水稲)

高田利明 (柑橘) (清水市)

(2) 後期 佐藤健次 (柑橘) (三ヶ月町)

勝又照行 (肉牛) (富士宮市)

井上 亘 (水稲)

長田静男 (花卉)

2. 研修期間 昭和57年4月～昭和58年9月

3. 研修職種 米作, 柑橘, 畜産, 花卉

4. 当初の研修計画 (テーマ、研修内容等)

私は国際農友会、先輩の紹介で、日本の農業を学ぶために来ました。また農業だけではなく、日本のいろいろな事を学ぶため、ブラジルから研修生として日本へ来ました。

5. 研修概要 (具体的研修内容及び成果)

日本へついでから友達と別れて、自分の研修先へ行く事になり、国際農友会の会員の農家で研修をしました。静岡県にある市川勝泰さんの農場でした。始めは苺の栽培でした。苺を作るため土壌消毒、苗作り、苗の選別をしました。平均温度 25℃～27℃、病気をふせぐため (サビ病、

ウドンコ病、アブラ虫、赤ダニ、ビールス）15日おきで消毒を行った。

7月は稲の苗作りで、稲の苗作りは難しい事で、研修の期間が決まられていて勉強が途中になりましたが、井上真さんの農場での研修を終わる事にしました。

井上さんの農場では、稲の苗の作り方を学ぶ事が出来ました。又稲の分析をして、研修が思った以上出来ました。苗作りは、前の農場と違いがありました。品種改良の研修を終わらして、畑作り、水の管理、ウンカ消毒、稲みずそうムシ、稲病等の研修をしました。

稲の研修を受けて、柑橘の研修を6月から受けました。高田さんの農場では、ハウスみかんの栽培でした。（品種はミネオラルみかん）アメリカではロージで作られているみかんですが、高田さんの農場ではハウス栽培でした。この研修の中ではいろいろな事をやりました。ハウスの組立、電気溶接、排水（下に灌水パイプをうめる）、みかんの摘果、選定を行ないました。ミネオラルみかんを作るためには、7月の初めから10月の終わりまでに8回消毒を行った。消毒はウィルスと害虫（赤ダニ）を防ぐために行った。ホルモン剤は、みかんの玉を大きくするために行なわれました。ミネオラルみかんを作るため一番のポイントは、一年間の温度のコントロール、灌水のコントロールでした。

柑橘の研修の続きで佐藤健次さんの農場で研修をしました。佐藤さんの農場では、早生みかん、ネーブル、青島みかんを栽培していました。

6月の研修の中で勉強になった事は、みかんの木の選定、消毒、貯蔵、つぎ木、病気、摘果等を学ぶ事が出来ました。柑橘の研修は、思っていた以上に勉強をする事が出来ました。あとの6ヶ月間は、3月勝又照行さんの農場では酪農、肉牛の研修をしました。肉牛については研修期間が短かったため、多く学ぶ事が出来ませんでした。勉強になった事はサイレジの作り方、牧草の作り方等の研修をしました。

肉牛の研修を終わらして、最後の3ヶ月は園芸で、鉢花、シクラメン（観葉植物）を主に勉強しました。

観葉植物では、ペコニア、ヘデラ、コルジリネ、ラン、フィトニア、ゼブリナ、プミラ、ピレア、シャコバサボテン、ドラセナ、アジアングム、セントポーリア、ゴッドセフィアーナ……等のさし木をしました。

シクラメンは時期はずれでしたが、病気と作り方について少し、又土造りが第一で土の消毒も少し勉強しました。

花作りは、ブラジルではやった事はありますが5年前から花作りの研修をしたかったので、日本で勉強出来た事は一番良かったと思います。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

日本に来てから一年半の研修も終り、ふりかえってみるとなんとこの一年半の早かったこと。始めの3ヶ月はわからない事がたくさんあり、受け入れて下さった農家は、親切でいろいろな研修が

出来ました。一年半の期間の中で、静岡県内の農場で研修を受けましたが、時間の関係で仕事を
して勉強をする事はつらかったが、また楽しい思い出がありました。

米作りと柑橘について、研修が思い通り出来ました。又酪農肉牛と園芸(菊、シクラメン、観
葉植物)等の研修は、日本へ来て勉強が出来てよかったと思っています。

7. 合同研修会について

研修生が集まり、皆んなと顔を合わせるのが楽しみでした。東京見物等で少しでも日本の歴史
文化にふれる事が出来て、今でも忘れる事が出来ません。国際農友会の研修で、全国4日クラブ
大会に参加をして友達も出来、思い出がたくさん残っています。又静岡県の研修でいろいろな勉
強が出来ました。

8. 本邦での生活状況

この一年半は、静岡国際農友会の会員の農家で研修を受け、農家では家族の1人としてあつか
われ、どこでも親切にいただきました。買物をしたり、休みには町までつれて行ってもらい
又映画館へも一緒に行きました。農家の方はいろいろな所へ見学につれて行ってくれました。大
変勉強になりました。花の市場へ行ったり、柑橘の試験場へも行き、いろいろな事を学びました。

ブラジルに帰ってから悔がないように、日本で楽しく過ごす事が出来ました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

日本に来る前に、日本語の勉強をしてきた方が良いと思います。

研修期間をもっと長くしてほしい。

日本での研修中にも出来るだけ日本語の勉強をしてほしいと思っています。

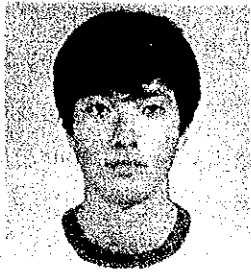
10. 所感(帰国後の抱負を含め)

この一年半について、いろいろな事の勉強をしました。米作り、水稲、柑橘(ネーブル、早生
みかん、青島みかん、ミネオラルみかん)の作り方を主にして学ぶ事が出来ました。日本で学ん
だ事は出来るだけブラジルの皆さんに伝えようと思っています。日本の農業だけではなく、日本
の文化、歴史、経済などの事について少しでも話してあげたいと思っています。ブラジルへ帰っ
てから兄弟と協力して農業をつづけて、日本で学んだ事を実現するつもりです。米作りと柑橘は
一人で作るつもりでおります。ブラジルを離れて、この日本での研修で勉強することが出来、ブ
ラジル国の文化、社会問題について見直す事が出来ると思います。ブラジルへ帰っても農業と工
業だけではなく、ブラジルの政治、社会、文化がかわっていると思います。初めのうちは国内の
ようすを見て、米や花栽培、柑橘、酪農、肉牛などの事を主に行いたいと思います。

この研修で、いろいろな勉強が出来ました。又第10回生として同期生の友達の時も忘れずに、
ブラジルへ帰ってからも頑張ります。長い間お世話になり有難うございます。

又国際協力事業団の方々には大変お世話になりました。心からお礼申し上げます。

国際農友会と農家の先生方にもお礼申し上げます、ありがとうございました。



荒木賢治(ブラジル ピリナーマリン)

1. 研修機関 (1) 前期 恵ちゃん牧場(静岡県裾野市)肉牛, 乳牛
静岡県畜産試験場(富士宮市) //

(2) 後期 草花栽培(浜松市深根町)鉢, 花, グロリオザ
果樹栽培(掛川市上内田)キウイ, 柑橋, 茶

2. 研修期間 昭和57年4月~昭和58年9月
3. 研修職種 (1) 肉牛, 乳牛(昭和57年4月~58年3月)
(2) 草花 (昭和58年4月~58年6月)
(3) 果樹 (昭和58年7月~58年9月)

4. 当初の研修計画(テーマ、研修内容等)

技術の導入について
酪農の経営
草花の管理
果樹の管理

5. 研修概要(具体的研修内容及び成果)

前期研修は静岡県にある酪農農家において、6ヶ月間の実習を行いました。そしてあとの6ヶ月間は、畜産試験場で勉強をさせていただきました。

最初に牛と慣れる体験でした。生き物を飼うのには一番大切な事である。又慣れるほど色々の管理或は病気がわかります。そしてこの期間では、牧草の管理、乾草の作り方(成分の質)、病気の治療、サイレージの作り方と保存を研修しました。又人工受精と受精卵移植技術の方法も少し学ぶ事が出来ました。

後期では、畜産だけではなく色々な農業を少し学びたいので、初めは草花の管理研修をしました。又キウイフルーツ、柑橋と茶の管理方法を勉強する事が出来ました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容を比較して

考えていた以上の研修が出来たと思っています。

7. 合同研修会について

合同研修会では全員12回生の皆さんと会うのが楽しかった。

8. 本邦での生活状況

農家では農家の家族の一員として生活が出来ました。

畜産試験場では官舎の一室で生活をしていました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

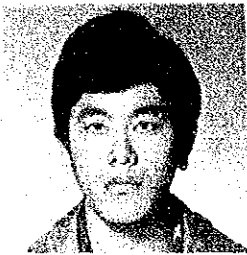
日本語を出来るだけ勉強して行く事が大切である。

10. 所感(帰国後の抱負を含め)

この一年半の研修期間に、多くの人々たちと触れ合う事が出来たので、色々な面で勉強になりました。

簡単な言葉では、自分は日本人の顔をしていますから、ブラジルへ帰ってからも日本語を勉強したいと思っています。又仕事にも色々な情報を取りながらやりたいと思います。

最後になりましたが静岡県農友会員の皆様方に心から厚く御礼申し上げます。又この機会を与えて下さった国際協力事業団の皆様本当に有難うございました。



中 村 有一郎 (ブラジル 桜高森)

1. 研修機関 (1) 前期 群馬県佐波 郡東村 園芸試験場
(2) 後期 横山バラ園 神奈川県平塚市
2. 研修期間 昭和57年4月～昭和58年9月
3. 研修職種 花卉(バラ)

4. 当初の研修計画(テーマ、研修内容等)

当初の計画としては、ブラジルでは、自分の家でバラの栽培をやっておりますので、花に興味を持ち、国際協力事業団の研修生として日本で切花の栽培について学びたいと思いました。土壌とか病害について勉強をしたいと思いました。

5. 研修概要(具体的研修内容及び成果)

前期の一年間は群馬県にある園芸試験場で研修を受ける事が出来ました。この研修において思いどおりにはいきませんでした。ただ多くの切花や鉢物生産について学ぶ事が出来ました。

この一年間のうち、思った以上に色々な花を見る事が出来、たくさん事をやりました。切花ではバラ、カーネーション、秋菊、かすみ草、スターチスなどの開花調査、さし木、接ぎ木、移植、管理そして鉢物の試験を主にやりました。シクラメン、ブゲン、ホクシャ、ポインセチアなどの特性調査、鉢替え、さし木、定植、移植をやりました。マリーゴールド、サルビア、コスモス、ペチュニアなどの花壇用の草花の種まき、移植をやりました。草もよく伸びるため除草をしました。土壌、病害、肥料(窒素、リン酸、カリ)を基準において詳しく説明をしてもらいました。こう言った物で基礎的な技術を学ぶ事が出来、やはり課長さんが言われた事では、試験場内だけではなく外をまわるのも良い勉強になるだろうと言う事で、バラの生産農家の見学を研修のスケジュールの中に入れていただき大変勉強になりました。

後期4月からは実習研修として神奈川県横山ばら園という農家でバラの栽培について研修を受ける事になりました。その農家は、バラ栽培専門として広い面積をかかえ、また多くの品種を作り、僕にとっては大変勉強になりました。

それから毎年春から新品種に植え替えをするため、苗から開花までの育て方を徐々に説明をしていただき、苗の仕立方も学ぶ事が出来、病害についてはやはりブラジルでは路地バラの栽培が多いので雨にあたるため病気の出る確率が高いので、それを防ぐためにはせめて屋根をかけるのが良いだろうという事がわかりました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

私の研修計画としては、切花の栽培について計画をたてました。そして、研修先は試験場でした。実際にその研修を受けまして、初めにはあまりにも日本語が不自由でしたので、勉強になっているのだろうかととどきました。しかし、切花の栽培については、思い通りに出来ましたので、満足しています。また思った以上に多くの花を見学する事が出来ましたので、大変勉強になりました。

7. 合同研修会について

研修期間中三回仲間達と会う機会がありました。それは私達にとっては、仲間達と話し合う事が出来、なやみ事等の相談も出来、交換会や旅行が出来た事も本当に楽しく非常にいい思い出になったと思います。

旅行について

- 一回は神奈川県箱根旅行でした。
- 二回は東北地方一松島一平泉一中尊寺一十和田湖一青森果樹試験場一青森ねぶた祭で興味深く見る事が出来、また日本の文化や歴史についての知識も深める事が出来、ほんとうにうれしく思っています。

8. 本邦での生活状況

一年間下宿生活を送りました。その下宿していた家はお寺でしたので自由ってわけにはいきませんでした。しかも毎日朝早くからお寺や庭の掃除をさせられました。食事も好きな物はたくさん食べられませんでしたが、不安な事も有りましたが、色々楽しい事もありました。又同じ年の人がいて話し相手になってくれました。日本の学生生活についても一つの勉強になりました。



半年間は農家の生活にはいりました。仕事はきびしかったです、とてもあたたかくしていただき、楽しくすごさせてもらいました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

特にありません。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

この研修期間に群馬県園芸試験場そして神奈川県農家実習として研修を受ける事が出来ました。試験場の先生方と想像より早くめぐり合う事が出来、友達のように付き合いが出来ました。それは僕にとっては気も使わなく、気楽に勉強を終える事が出来、そのため色々花卉について学びました。切花について植え付、さし木、接ぎ木、剪定、定植、それから鉢物や草花類も参考になりました。

私は主にバラの栽培について勉強をしましたので、バラについては詳しく説明をしてもらいました。品質の良いバラを生産するためには、つぎのように学びました。バラは一度定植すると3、4年間連作するので、安定した生産を続けるには土造りが一番大切な作業となっている。

最近、市販のピートモスやスーパーコンなどを1,000㎡当り30-40tを土中50cmの層に通路を含めて全層に施し、土壌の物理性の改善を図って、定植して良い品種生産に効果をあげる事でした。計画的な剪定、ピンチ、芽かき、剪定をする事でした。剪定をする場合、水を完全に切る事、それをしなければ地上部と地下部のバランスがくずれて芽の吹きが悪くなったり枯死（キヤンカー）が出て切花本数が減少することがある。この対策として日本の農家で枝を折り曲げて行う剪定方法が考案されていた。しかし全部の枝を折り曲げるのに多くの労力を要するので、従来の切戻し剪定とミックスした一部折り曲げ剪定法を開発し、その結果、良い成績を納めている。

また開花時期の調整は年2回ピンチを行い、芽かきは採花本数や樹勢に応じた方法を取り入れるなど品質の向上に努め、病害については、バラは花木の中でも最も病害虫の被害を被りやすく、栽培の成否は、病害虫の防除如何によるといっても過言ではない。バラに発生する病害は数多いが、それぞれの病害の発生様相や防除の難易は、栽培する品種、栽培型、栽培環境などによって異なる。病害の種類によっては、かなりの量の薬剤散布を行わないと防除が困難等のものが多く、特に営利栽培では省力的で、しかも安全な防除方法が望まれる。こういった事を学びました。そして化学肥料についても説明をしてもらいました。

バラ、カーネーションの生産農家の見学をスケジュールの中に入れてもらい、日本の農家を見る事が出来ました。又切花の展覧会に連れて行ってもらい、とてもありがたく思いました。日本のバラ切花生産は、ブラジルに対して個々の面積は小型ではあるが、各県にみる団地造成や施設の近代化による、品質的にいっても目覚ましい進歩があり、決して勝るとも劣らない域に達していると思えました。

日本では、色々な技術を学びました。ブラジルではバラの栽培をしておりますので、日本で学ん

だ事を参考に作りたいと思います。ただ路地栽培をやっておりますので温室の栽培とは多少かわる事でしょう。これからブラジルに帰る、どのように自分の農業を組込んで行くのかが考えられます。

この一年の中、あらゆる物を見て、色々と多くの人のお話を聞く事が出来中でも、たくさんの事を学ぶ事が出来たと思います。おかげ様で大変勉強になりました。有難うございました。

福 原 勉 (ホリヴィア サンファン)



1. 研修機関 (1) 前期 長崎高等職業訓練校
(2) 後期 九洲建設機械販売(株)キャタピラー三菱
2. 研修期間 昭和57年4月～昭和58年9月
3. 研修職種 前期 自動車整備 後期 建設機械 サービス

4. 当初の研修計画(テーマ、研修内容等)

研修応募当初の目的は次の通りです。

- ① 建設機械又は農業機械
- ② 油圧装置(専門的な知識と技術)
- ③ 日本の企業システム及び近代化について
- ④ 祖国日本の先端技術力を見聞

5. 研修概要(具体的研修内容及び成果)

昭和57年4月13日、長崎県立高等職業訓練校に入校、普通訓練課程自動車整備科(二類)一年の養成訓練を受ける。

<研修内容>

1. 自動車内燃機関の構造(GAS/ENG, LPガス/ENG, DIESEL/ENG, ロータリ/ENGの構成)
2. // の構造(シャシー動力伝達装置)
3. // 電気装置(A.C.オルタネータ, スタータ, PN接合半導体)
4. // 整備実技
5. // 検査法
6. // に対する法令
7. // 工学
8. // 材料(金属, 非金属, 非鉄金属の性質)
9. // 安全衛生
10. ガス溶接

<成果>

職業訓練校で、整備士として基礎的な技能を会得し、ガソリン、ディーゼルエンジン、シャーシ、ガス溶接、4類の資格をとり、技能士補である事を証明されたことと、日本語に対する教養。

<後期研修>

昭和58年4月、福岡県筑紫野市にある九州建設機械販売(株)キャタピラー三菱で6ヶ月の実地研修。

<研修内容>

1. 建設機械本体系統(キャタピラー三菱、ディーゼルエンジン)

- (1) インジェクションポンプ(油圧補助装置付機械式ガバナ)
- (2) ターボチャージャ
- (3) アフタークーラー

2. 動力伝達装置(パワートレイン)

- (1) トルクコンバータ及びトルクデバイダー
- (2) パワーシフト トランスミッション
- (3) ハイドロリック システム , コントロールバルブ
- (4) リフト シリンダ
- (5) 油圧, ブースタ構成及びステアリングコントロール
- (6) ステアリング, クラッチ

3. 電装品課程

- (1) ブラシレス交流発電機
- (2) デルコレミイ整流機
- (3) 電子部品の特性
 - a) 整流素子(ダイオード, トリオダイオード, ツェナダイオード)
 - b) 増幅用素子(トランジスタ, スイッチング)
 - c) 電子回路素子(ICディジタル, LED, DIODE)

4. オイル分析(O.S.O)

<成果>

キャタピラー三菱での実地研修では、上欄の構成品で成立、一機の建設機械が常に正常でかつ、能率良く作業が得られるよう、種々の試験器を使用し、適切なサービス管理を行った。

また、ユーザの現場で、トラブル・シュートを行った。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

実際の研修は厳しかった。

日本の技術進歩は予想よりはるかに上だった。

私は当初の計画ではメーカーなどで研修を受ける希望でしたが、実際前期研修は基礎的な事でした。

た。しかし、今思えば大切な事だった。

研修先の設備等にあつては、非常に整っており充実した研修内容が出来たと思ひました。

7. 合同研修会について

数回実施された合同研修は、私にとって一番日本の印象として残る集まりだったと思ひます。各地方から移住センターに向つて来る研修生は皆、それぞれの研修機関で有つた出来事をいろいろと語り合つたり、先輩や後輩達と食事会を開いて、楽しい時を過す事が出来ました。

8. 本邦での生活状況

4月13日、訓練校の寄宿舎である百合野寮に入寮して、1年間の訓練生活を送りました。

団体生活は初めてで、なかなか慣れる事が出来なかつたがしかし日本の若者達の性格がわかるようになった。

九州建設社員クラブでの暮らしは、大変環境が良く、寮生の皆も心豊かな人ばかりで、休日にはいろいろな所に見学や祭り（博多どんたく）に案内して下さいました。

この18ヶ月暮して、日常生活の上での交通、情報、いろいろな面で不便を感じた事はありませんでした。

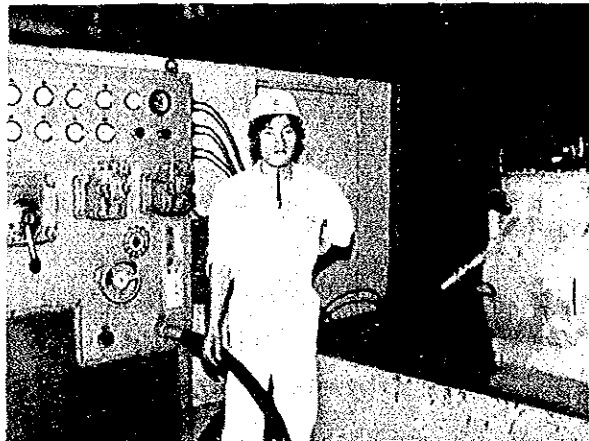
9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

特にありません。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

昨年、4月5日、地球の裏側のポリヴィア国から、国際協力事業団、サンファン事業所による第12回移住者子弟技術研修生として祖国である日本に到着して、もう一年半の滞在期間が終ろうとしています。

その期間にいろいろな事があつたが、あっという間に過ぎ去ってしまったように思われる。そして一年半の月日をふり返ってみると、まず、海外移住センターでのオリエンテーションの期間に東京見学に行く途中、初めて電車に乗った時だったが、はみ出されるような人込みの多い所を、われ先に席を取ろうと押し合いへし合い座席を求める人を見て、あらためて大都会に住む人の厳しさを感じながら、研修先の長崎県長与町にある職業訓練校自動車整備科に同回研修生（ドミニカ国）と1週間遅れて入校。当初の訓練生25名、この中の70%が当年の春に高校を卒業して、短時間で技術を身に付け就職に向けて行く人達と一緒に、同じように受けました。最初は、施設



の習慣や規則を守ることと、早く友達を作る事でした。

授業については、前記の5.研修概要で述べた内容を午前、学科、午後、実技を行ったが、当初の講義は、日本語が不十分の為、理解はあまりできなかった。特に、法令については、学科では自動車構造の理論、基礎的な知識を得る事が出来た。

実技では、エンジン、オーバーホール、点検、調整方法。計測器の使い方、インジェクションポンプ油量テスト方法、排気ガス(Hc, Co, Nox)テスト方法、車検整備、溶接などを行なったが車検整備が一番厳しかったです。

ポリヴィアにも車検制度があれば、交通安全も確保出来るのではないかと思います。

ようやく訓練校になれば、仲の良い友達が出来たら、もう卒業。学校の先生方や仲間達にさざん迷惑をかけ、そのお礼をする事は出来なかったが、資格試験には、全種目合格出来ました。これも皆様の御指導のお陰様だと思います。

前期研修が終え、3月28日、後期研修先の福岡県筑紫野市にある九州建設機械販売(株)キャタピラー三菱に移転した。

4月3日、合同研修及び第13回生を迎えに、海外移住センターに集合した。

4月4日、19:00時、移住センターに第13回生27名無事に到着。その夜は、各国の話題に囲まれ、向うにいるような雰囲気でした。

4月7日、後期研修先に向かった。

今期は、建設機械、サービスの实地研修に入った。

建設機械を大きく分種すると、エンジン、パワートレーン(動力伝達)、ハイドロリックシステム、(油圧装置)エレクトロリックシステムとわかれる。

各装置別において、1週間コースのサービス教育で、機能、作動原理、各部品の材質、CAT、COの特所などについて学んだ。

工場内の設備にあっては、十分に整っており、エンジン単体で出力試験、トルクコンバータ、パワーシフト、トランスミッション、リフト、シリンダ、油圧試験、各機種の機能テストが出来ました。

実際、現場での作業、何度か出張に出て、トラブルシュートを行なったが、いかに早く故障探究が出来るかでしたが、やはりそこに達成するまでには長い経験が必要だと思いました。

キャタピラー三菱では、専門技術と言われる、全油圧システムの作動原理を理解することができた。

日本で得た技術をポリヴィアで精一杯活用して行きたいと思っております。しかし、発展遅れもある事で、すぐに100%が発揮する事は出来ないと思います。

この一年半、旅行は九州から北海道までずい分いろんな所に行き、日本文化を見て知る事が出来ました。